教友

第 96 号

目　次

卒業生会員への親睦支援と学生・院生会員への支援～大学・教育学部との協力を通して～　大澤　利彦…1
教育学部の現況……有川　秀之…2
教職支援委員会から……3
模擬個人面接を通して・模擬個人面接を受けて…4
教採合格者から後輩へのアドバイス……5
キャンパスライフ　サークル紹介……7
体操競技部・体育会男子バレーボール部
邦楽部琴吹会・放送研究会
キャンパスライフ　ゼミ紹介……9
自然科学専修算数・数学分野　二宮裕之研究室
特別支援教育コース　三橋翔太研究室
同窓生の広場……10
卒業五X周年同窓会報告……16
卒業五X周年同窓会開催等案内……22
令和七年度教友会事業報告……23
令和七年度定期総会報告……24
埼玉大学ホームカミングデー二〇二五……25
令和七年度教友会役員名簿・学年理事名簿……26
事務局だより・編集後記……28

卒業生会員への親睦支援と学生・院生会員への支援
～大学・教育学部との協力を通して～

会長　大澤　利彦

ご挨拶と御礼

今年度の諸事業が無事終了できますこと、会員の皆様のご理解・ご協力の賜と感謝申し上げます。

私、今年度会長に選出していただきました大澤利彦と申します。

松澤勇治前会長まで、歴代会長の皆様が本会の充実・発展のために大変ご尽力されました。私も社会の動向（埼玉大学の授業料値上げや教育学部の入学定員削減を含む）等も踏まえ、精一杯努めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

主に卒業生会員の皆様へ

事業の一例として、卒業五X周年同窓会も、学年理事をはじめとする幹事の皆様のご尽力により、六学年で開催されました。

私も教友会役員として「卒業五十周年同窓会」に参加し、同窓生の皆様が、実に楽しく親睦を深めてくださっていることを、会場で強く感じることができました。会則の目的にもありますように、今後も「会員相互の親睦を厚く」していただく機会になるよう、教友会としても支援を続けていきたいと存じます。

主に学生・院生会員の皆様へ

皆様には、教育に関する情報が溢れる中、入学時の教員志望が揺らぐことがあるかもしれません。

私自身の教職生活を振り返ってみて、この職に就けて良かったと今でも思っています。子供たちの成長に関わり、その成長を身近で感じることができます。同窓会等の機会に卒業後の成長を実感することもできるのです。そんな教職の魅力を一人でも多くの皆様に感じてほしいと願っています。

会則の目的には「併せて教育の振興を図る」ともあります。その一環として、今後も、大学・教育学部と協力し、「模擬個人面接」や教員採用試験対策ＤＶＤ活用促進等を通して、学生・院生の皆様の支援に努めてまいります。

記念庭園（教育学部Ｃ棟の前庭）

～大学・教育学部との協力～

手元に『教員養成百年・教友会結成二十五周年　記念事業実施報告書　昭和五十四年（一九七九年）五月十九日　埼玉大学教友会』があります。教友会から埼玉大学に庭園（秩父の赤色角岩を含む）が寄贈された時の報告書です。

印象に残った内容のほんの一部ですが紹介いたします。

・百年の歩みを未来に託す
・六三一〇名の醵出者のご協力
・庭園の設計等から工事の監督に至るまで、ご尽力いただいた教育学部の先生方のお骨折り
・日本ではじめてのスーパー・エリプス形庭園が後輩学生諸君のために実現　等

大学・教育学部と教友会が協力し「学友ここに集い　ここに憩いここに思索す」（碑文の一部）を願い、「母校の発展を祈って」（碑陰の記の一部）建設された、関係の皆様の熱い思いと共に、優れた教員養成への大きな期待を感ぜずにはいられません。（報告書は清水章夫先生からいただきました。）

本会顧問、元会長の清水章夫先生が、令和七年六月二十一日にご逝去されました。（令和七年度教友会総会開催日でした。）

平成二十四年度まで会長として会の充実・発展のためにご尽力され、顧問としても、毎年本部常任委員会・定期総会にご臨席の上、教友会の一層の充実・発展に向けてのお言葉をくださいました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（昭和五十二年卒）

教育学部の現況

埼玉大学教育学部副学部長　有川秀之

はじめに

令和六年四月より副学部長を拝命し、二年目を迎えております。日頃より教友会の皆様には多くのご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。私は一九九一年に埼玉大学教養部に赴任いたしました。その後、大学設置基準の大綱化により、一九九五年教育学部へ配置換えとなり、保健体育・スポーツ（特に陸上競技・運動学）を専門として、将来教員となる学生に対して、豊かな心と健やかな身体を育むことができるよう、尽力してまいりました。

教育学部の現状と取り組み

教育学部は、令和八年度に新しい教育学部をスタートする準備が整いました。具体的には、学校教育教員養成課程（学校教育コース・教科教育コース）と養護教諭養成課程に組織再編し、「学校教育コース」では小学校免許状取得を必須とし、「教科教育コース」では小学校と中学校の両教員免許状の取得を必須としております。また、教科・専門分野を強化するとともに、教員に求められる人間性と社会性を総合的に育てるカリキュラムとして、学部共通科目である「教職キャリア科目」などを中心に充実させます。さらに、講座横断的な教育体制として「現代的教育課題部門」、「講座横断教員」の新設により、新たな時代の教育課題・教員養成に対応するようにいたします。

学生の受け入れについて、小学校コース前期日程の募集を「大くくり入試」から「専修・分野別入試」に変更し、来年度ようやく卒業生を輩出できます。また、令和六年度入試より、一部の専修分野で後期日程を導入しております。

さらに、令和七年度入試から学校推薦型選抜に「地域枠」を導入しております（募集人員十六名に対し六十二名が応募）。埼玉県内の高等学校から、県内の小学校や特別支援学校への教職を強く希望する高校生を選抜して、大学四年間を通して地域の特色を踏まえた教育を進め、力量ある教員の輩出を図るものとして期待されております。

学部としての研究活動について、附属学校との連携により、「共生・ダイバーシティ社会の担い手づくり」をテーマに先導的な教育モデルの開発を進め、毎年行う教育実践フォーラムで報告し、今年度は教育モデル・プログラムの中間まとめを行っております。

また、教員研修環境の充実に向けた研究成果の発信として、令和五年度から「埼玉大学教育学部が提供可能な教員研修一覧」を毎年集約し、県や市の教育委員会を通じて各学校が活用する形をとっており、令和七年度では百九十一タイトルに及びます。さらに教育学部ホームページに十五タイトルの教員研修動画を公開し、全国の教員研修に活用されております。

教職大学院の現状と取り組み

本学の教職大学院は、「総合教育高度化プログラム」と「教科教育高度化プログラム」の二つを開設しています。幼児教育、特別支援教育を含めた学校教育を全面的に支え牽引する高度な専門性を備えた人材を育成するために、豊かな教職経験を有する実務家教員を含む教育学部を担当するほぼすべての教員が教職大学院の指導を担当しております。入学者は、令和六年度五十一名、令和七年度五十五名となっており、概ね定員を充足しております。

また、令和七年度から、六年一貫教育の趣旨の下、大学院の一部の科目を院進学希望の学部生が受講し進学後に単位認定するプログラムを新規開設しました。このプログラムによって、教職大学院への学部生の進学希望者を増やすとともに、大学院水準の科目履修による資質・能力の高度化を可能とすることに加えて、大学院一年次のカリキュラムの過密さを軽減する効果が期待されます。令和七年度の募集に対して、十一名の学部四年生が、教職大学院の授業を受講しております。

むすびに

埼玉大学は師範学校を基盤として受け継がれ、県内唯一の国立大学法人として、力量ある教員を養成することが期待されております。教育学部は、その使命を果たすよう取り組んでいく所存ですので、引き続きご協力・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

教職支援委員会から

教採合格に向けての主な取組内容及び教職支援室の積極的な活用

一　教員採用試験の全体の動向

教員採用は、比較的長期に渡る採用増加期が止まりつつあり、自治体により採用数の増減が異なる傾向にあります。本年度埼玉県では、全校種を合わせて一七七九名となり、昨年度より二十四名増となっています。また、さいたま市は二二〇名となり、昨年度より二十三名増となっています。

全国的な傾向として、小学校教員採用倍率の低下が顕著となっています（本年度埼玉県は一・六倍、さいたま市は三・七倍）。学生にとっては、比較的教員になりやすいと喜ばしい一面がある一方で、今後の教育界全体を考えると、教員の質の低下が懸念されます。

このような状況下で、試験日を例年と比べて早期に実施したり、三年生からの一部受験を実施したりするなど、各自治体は優秀な教員の確保に力を注いでいます。

教職支援委員会ではこのような動向を踏まえ、採用試験を受ける学生をサポートする様々な取組を行っており、教友会（教育学部同窓会）のご協力も多くいただいています。

二　教友会からの支援

教員採用試験対策「模擬個人面接」

七月十七・十八日の二日間にわたり、ご指導をいただくことができました。面接では志望校種を問わず幅広く対応していただき、本番を想定した面接指導を通して、多くのご示唆をいただきました。

教員採用試験対策ＤＶＤ教材

教友会から教職を目指す皆さん（終身会員登録をしている方）のために、オンラインで視聴できる教員採用試験対策ＤＶＤ教材を提供していただいています。積極的に活用して力を付けましょう。

○視聴できるＤＶＤの内容

・実力錬成教職教養（二十コマ）
・教職教養シリーズ（五コマ）
・小学校全科（二十コマ）
・養護教諭（十コマ）
・特別支援教育（十コマ）
・埼玉エリア対策（二コマ）
・教職面接ＤＶＤ講座（二十コマ）
・教職論作文ＤＶＤ講座（十四コマ）

附属学校園研究協議会への参加支援

終身会員登録をしている学生に、研究協議会への参加支援があります。最新情報をホームページで確認して、ぜひ参加しましょう。

三　来年度の教員採用試験対策（予定）

教職支援委員会では、教職支援セミナーとして、一斉指導やクラス別学習のほか、前述の教友会「模擬個人面接」や個別相談など、教員を希望する学生を支援する取組を充実させてきました。これらの教職支援に関する取組への出席率・活用率が教員採用試験の合否を左右するところになってきています。

以下、来年度の教員採用試験に向けた取組（予定）を記します。

○四～五月　各自治体の教員採用試験要項説明会の実施
○四～七月　教職指導員による前期教職支援セミナーの開催
○四～七月　教師力向上ケーススタディ演習Ⅰ
○七月中旬　教友会による「模擬個人面接」の実施
○七月下旬～八月中旬　二次対策のための個別指導
○十～二月　教師力向上ケーススタディ演習Ⅱ、教師基礎力養成演習
○十～二月　教職指導員による後期教職支援セミナーの開催
○十一月～十二月　埼玉県・さいたま市他の採用試験説明会や都道府県別指導の実施
○二月～　予備校講師による対策講座及び一次試験対策模擬テスト等の実施（生協企画連携）

四　教職支援セミナーへの参加

教職支援委員会では、論文・面接・実技試験対策等の教職支援セミナーを開催し、教職を志望する学生を支援しています。令和八年度教員採用選考試験においても、これまでと同様、セミナーへの参加回数が多い学生ほど合格率が高い結果となっています。これは、教育及び教職に関する豊かな知識と経験を有する教育実践総合センター教員や教職指導員等の指導のもと、学友と切磋琢磨し、学びを積み重ねてきた成果です。

教職支援セミナーに積極的に参加し、早い時期から継続的に準備をしておくことが重要です。

五　教職支援室の積極的な活用

教職支援の窓口としてＣ棟二階に「教職支援室」を開設しています。教職支援室では、全国の教員採用試験の情報収集と提供、教職支援室スタッフによる相談などを行っています。また、各自治体の過去の試験問題集、各教科等の学習指導要領・解説や教科書、各種教育情報誌などの閲覧や貸し出しも行っています。

教職支援室は教職を目指す学生のニーズに沿ったサポートを心がけています。積極的に活用しましょう。まずは気軽に足を運んでください。

模擬個人面接を通して

～面接指導員からのワンポイントアドバイス～

教友会では、学生支援事業の一つとして、教友会推薦の面接員による「模擬個人面接」を、教員採用二次試験前に実施しています。本年度は、七月十七・十八日の二日間行いました。

模擬個人面接終了後、各面接員から出されたアドバイスの主な内容は、次のとおりです。

○「入室から退室まで、すべて見られている」という自覚をもち、清潔感のある服装・身だしなみ・節度のある振る舞いに気を付けたい。「印象」も重要である。

○出願時に提出した資料の再確認及び想定質問への準備とともに、各質問内容には正対し、簡潔・明瞭に自分の言葉で答えたい。

○自分が受験する自治体の求める教師像や「教育振興基本計画」などの教育施策についての理解を深めるとともに、なぜその自治体を志望するのかの理由を事前に明確にしておきたい。

○教育に関する内容、教育時事、教育法規等、正確な理解をもとに回答し、追加質問にもその理解をもとにぶれのない一貫した回答をしたい。各施策のねらいや実施上の課題など、自分の言葉で答えられるようにしたい。

○特別支援教育関係については、各校種で出題される傾向がある。「インクルーシブ教育」「支援籍学習」など基本的な内容についての理解を深めたい。

○保育士志望者でも、地方公務員法の基本的な内容の理解に努めたい（公務員になる意識）。

○大学推薦者は一次試験を免除されているとはいえ、教職教養・教育関係法規等、基本的な内容の理解に努めておきたい。

◎限られた時間の中でも、教師としての適性や自分のよさ等を最大限アピールできるようにしましょう。

教友会では、教職をめざす学生への支援として、教員採用試験対策ＤＶＤ『時事通信社版「教職オンライン講座」』を購入し、会員（終身会員）が視聴できるようにしています。こちらもご活用ください。

模擬個人面接を受けて

～実際の面接で役立ったこと等～

言語文化専修英語分野　立花　未妃

私が、模擬個人面接を受けて教員採用試験で役立ったことは二つあります。

一つ目は、教員採用試験の本番と同様に緊張感をもって練習できたことです。これまでも教職支援セミナーに参加したり、友人と集まったりして面接対策をしていましたが、模擬個人面接では面接官をしてくださる先生と初対面で行ったので、いつも以上に気合を入れて練習できました。また、本番と同様の身だしなみで入室から行うので、当日は安心して面接会場に向かうことができました。

二つ目は、自分の課題が明確になったことです。友人との練習では気付けなかった視点からのアドバイスをいただいたり、自分がまだ押さえられていなかった知識を確かめたりすることができました。また、質問内容を友人と共有したことで、より多くの質問への対策をすることができました。

教員採用試験は練習あるのみです。試験対策ができる場に積極的に参加して、合格に向けて頑張ってください。応援しています。

心理・教育実践学専修　納見彩美子

模擬個人面接では、本番のように面接練習を行うことができます。私が模擬個人面接を受けて良かったと感じたことは二つあります。

一つ目は、本番と同じような緊張感で面接ができるということです。よく知っている友達同士での面接練習ではなく、その場で初対面の人と面接をすることで、どうしたら自分の考えを相手に伝えられるかということを意識することができました。面接官によって雰囲気が変わるので、その人に合った伝え方をすることも大切です。

二つ目は、今までとは異なる視点でアドバイスをいただけたことです。面接室に入る時の出入りの際の声や、「よろしくお願いします。」「ありがとうございました。」の声を、はっきりと大きい声で笑顔で言うと、印象が良くなると指導していただいたことで、本番では、そこも意識して臨むことができました。

埼玉大学では、たくさんの支援の中で、多くの仲間と勉強することができます。皆さんが合格できるよう、応援しております。

教採合格者から後輩へのアドバイス

〈小学校①〉

芸術専修図画工作分野　新村　蒼子

私は大学推薦で一次試験免除のため、二次試験の対策について紹介します。

二次試験の対策を通して、同じ志をもつ人と積極的に関わることが、合格へのカギだと感じました。人と関わることで、励まし高め合い、多くの有益な情報を共有し合うことができました。

私が特に力を入れて取り組んだことは、教職支援セミナーへの参加です。セミナーでは、経験豊富な先生方から、受験する自治体に合った対策をしてもらえます。埼玉県の面接には、試験官を児童に見立てた場面指導があります。学生同士ではアドバイスが難しい所も、先生から指導がもらえます。

小論文に関しても、予想外の論題にも対応できる基礎をセミナーで学んだおかげで、本番は満点でした。セミナーを通じてできた友達とは、休日にも公民館で面接練習をしました。もちろん違う自治体の受験者との練習も勉強になり、多くの出会いに感謝しています。

このような充実した教職支援を受けられるのは、埼玉大学生の特権です。皆さんも対策を積んで、自信をもって試験に臨んでください。

〈小学校②〉

身体文化専修体育分野　山本　海翔

私が採用試験を受験するにあたって、特に効果があった取組を紹介します。

一つ目は、多くの方と面接練習を行うことです。面接では、声のトーンや態度、表情、内容など、さまざまな観点から評価されます。私は多くの方と面接練習を重ねる中で、「この人のここが良い」と思った点を意識的に取り入れるようにしました。その結果、さまざまな人の良いところが詰まった、より洗練された面接ができました。

二つ目は、自分の考えの軸を明確にすることです。理想の教師像や子供像、授業観、大切にしたい価値観などをノートに整理し、それをもとに面接で回答するよう心がけました。これにより、面接全体を通して一貫性のある受け答えができたと感じています。

私が採用試験に合格できたのは、実務家教員の先生方をはじめ、教職指導員の先生方、共に学んだ仲間、そして支えてくれた家族の存在があったからです。

皆さんも、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、合格に向けて努力を続けてください。私も学び続け、立派な教員を目指します。心から応援しています。

〈中学校①〉

社会専修　牧野　涼風

私が受験する上で効果的だったと思う取組を、いくつか紹介します。

一次試験については、最初に過去の問題を解き、分析し、問題の傾向を把握することです。私は最初に、過去三年分を解きました。どのような問題が出やすいのかを把握することで、やるべきことが明確になり、効率的な勉強につながります。

二次試験については、人と会って、対面で練習することです。私は教職支援セミナーや教職支援室の個別相談、友人と企画した練習会など、対面で練習できる場を多く利用して対策をしました。試験では、試験官の方々や他の受験者とのコミュニケーションが大切なので、本番に近い形で練習するためにも、対面で行うことがよいと思います。

小論文に関しても、自分で添削することは難しいので、大学の先生や友人に添削をお願いするなど、頼ることが大切です。

私が合格をいただくことができたのは、大学の先生方や共に勉強した友人たちのおかげであると思っています。周囲の方々への感謝を忘れずに、頑張ってください。応援しています。

〈中学校②〉

言語文化専修英語分野　川﨑　花歩

私が教員採用試験のために取り組んだことをいくつか紹介します。

一次試験については、受験する自治体の傾向をつかむことが重要です。膨大な知識を覚えるには時間に限りがあるため、効率を重視して勉強を進めました。傾向を把握したうえで、何度も問題集を解いて苦手分野を克服するとよいと思います。

二次試験については、自分一人で取り組むのではなく、仲間と一緒に対策することを大切にしました。特に英語の実技試験では、発音・文法・語彙選択の仕方などを細かく見合い、アドバイスし合うことが有効だと感じました。そのほかにも、小論文や面接のアイデアを交換し、互いに学び合うことで大きな刺激になりました。一人で対策するには限界があります。仲間と一緒に多くの練習を重ねることで自信にもつながりますし、モチベーションの維持にも役立ちました。

試験対策を進める中で、否定的な気持ちになることも何度もありました。しかし、仲間と励まし合ったり相談し合ったりすることで乗り越えることができました。皆さんも不安なことは多いと思いますが、仲間と支え合いながら頑張ってください。応援しています。

〈高等学校〉

心理・教育実践学専修　中村　亮太

私は、三年次チャレンジ選考で合格し、ＴＯＥＩＣで加点申請をした上で採用試験に合格しました。

一次試験対策では、分析と対策を大切にしました。一次試験は出題パターンが決まっているので、難易度を理解し、何を勉強するかを明確にしました。もし分からなければ、ＡＩを活用することも有効です。過去問を解く際の目標点は、当てずっぽうをせず七割としていました。私の失敗談として、四年生になり、ＴＯＥＩＣよりも英検の方が専門科目に傾向が近いことに気づき、後悔した経験があるため、過去問は早めに目を通すことを勧めます。

二次試験対策では、教職セミナーを積極的に活用しました。二次試験を独学することは難しいため、全回出席することをお勧めします。面接官経験者の先生方から具体的な評価基準を学べる点は大変有益です。特に意識したことは、質問に正対し、根拠を説明できるようにすることで、その準備を大切にしました。

頑張るだけなら他の受験者と同じなので、どう頑張るかが合否を決めると思います。最後になりますが、みなさんの合格をささやかながら応援しています。

〈特別支援学校〉

特別支援教育コース　坂寄　伊万莉

私は一般選考で埼玉県の特別支援学校教員の採用試験を受験しました。採用試験を受けるうえで取り組んだことを紹介します。

特別支援学校教員の試験は五種類の試験があり、様々な面の対策が必要なことが特徴として挙げられるので、まずは過去の問題を解いて傾向をつかむことに留意しました。過去問は、参考書だけでなく、教職支援室も活用しながら幅広く収集することを意識しました。他には、教員になった先輩のお話を聞いて実際の雰囲気を知ることでイメージしやすくなりました。

筆記試験については過去問等で対策し、面接等は実践しないと力は付かないと考え、実際に試験官を経験された方からアドバイスをいただける教職支援室が開催している面接練習を受けました。これはとても有意義なものだったと感じています。小論文に関しては、論題を見たら大まかに書くことをイメージできるようになることを目指しました。

採用試験は、どれだけ事前情報を集めて対策するかが大切だなと感じました。一緒に切磋琢磨できる友達もとても心の支えになります。ぜひ互いに高め合いながら、教員という夢に向かって最後まで頑張ってください。応援しています。

〈幼稚園・保育園〉

乳幼児教育コース　二宮　優月

公立幼稚園の採用試験に向け、取り組んで良かったことを紹介します。

一つ目は、子供の姿を具体的に想像するための材料集めです。私の受験した自治体では、専門試験や論文試験、模擬保育があり、対策時には子供の姿を具体的に思い浮かべることを心がけていました。教育要領の文言を捉えたり、保育者としての働きかけを考えたりする上で、実際に関わった子供の姿がヒントになることも多々あります。私は、実習や、個人的に参加したボランティアでの経験が参考になったので、子供と関われる場所へ積極的に赴き、体験の機会を求めることが大切だと思います。

二つ目は、他者を頼ることです。私は、面接と論文のセミナーに参加し、論文は教職支援室の先生に添削していただきました。先生や友達からのアドバイスは、改善点を見つける上で非常に参考になります。また、他の人に見てもらう機会は、落ち着いて本番の試験に臨むための安心材料になりました。

受験を控える皆さんには、ぜひ同じ夢に向かう友達や、親身になって指導してくださる先生など、いろいろな人との関わりを大切にしてほしいです。それぞれの夢が掴めるよう、応援しています。

〈養護教諭〉

養護教諭養成課程　菅沼　凜歩

私が教員採用試験のために取り組んだことについて紹介します。

一次試験の対策については、参考書や問題集をわからないところが無くなるまで解くことを意識しました。最低でも問題集を三度読むようにし、不安がある個所は参考書やマニュアルを確認し、知識が確実に定着するようにしました。私が受験した自治体は、一次試験の合格基準がかなり高かったので、最新のマニュアルや新しくできた法律などはよく確認しました。

二次試験の対策については、友人と協力しながら取り組みました。面接や小論文では、互いにアドバイスを行い、自分に足りない力を見つけることができました。集団討論では、他学科の学生や他大学の学生と共に練習を行いました。二次試験対策は、たくさんの学生と協力したため、本番も自信を持って取り組むことができました。

試験の対策をしている間は、何度も不安な気持ちになり、心が折れそうになることもありました。その時は、共に頑張る仲間のことを思い出し、気持ちを引き締めていました。「絶対に養護教諭になる」という強い思いをもって試験対策に挑んでいました。同じ夢を持つ仲間と共に、最後まで頑張ってください。応援しています。

キャンパスライフ　サークル紹介

体育系

ピタッと着地 ぎゅっと仲間
体操競技部

杉井　爽花
（生活創造専修家庭科分野四年）

こんにちは。埼玉大学体操競技部です。私たちは、初心者から経験者まで楽しく取り組む「全力青春部」でありながら、全国大会にも出場する「全力熱血部」です。体操競技部では、男子はゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒の六種目、女子は跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆかの四種目があり、すべての種目の練習ができる環境を整えています。

現在は、一年生から大学院生までの約二十名で活動しており、週に四回、埼玉大学第一体育館を主な練習場所として、学年や年齢の壁を越えて、仲良く・明るく・温かな雰囲気の中で練習しています。先輩・後輩の間でも自然に声を掛け合い、互いに支え合える関係が、技への挑戦や成長をそっと後押ししてくれています。こうした一体感が、体操競技部の大きな魅力になっています。

私たち体操競技部は、年間を通して様々な大会に出場しています。四月の「東日本学生体操競技グループ選手権大会」に始まり、五月の「東日本学生体操競技選手権大会」、八月の「全日本学生体操競技選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」、そして十一月の「霜月杯」と、大会を通して日々の練習の成果を発揮できる機会が年間を通してあります。大会では、初心者から経験者まで、互いに応援し励まし合いながら全力で演技に取り組む姿や、応援する姿が印象的です。

イベントも豊富で、部内の交流もとても盛んです。年末には体育館や器具の大掃除を行ったあとに忘年会を開き、昨年度は、卒業される四年生へ感謝の気持ちを伝える会も行いました。夏には旅行やドライブ企画などもあり、部員同士で楽しい時間を共有しています。こうした行事を通して、先輩・後輩の垣根を越えて絆を深められることも、体操競技部の大きな魅力の一つです。

このように、多くの大会に出場し、整った環境で日々の練習に取り組むことができているのは、これまで部を支えてくださった先輩方のご活躍と温かいご支援のおかげだと感じています。

これからも埼玉大学体操競技部らしく、元気一杯に活動を続けてまいります。引き続きご支援とご声援のほど、よろしくお願いいたします。

第74回関東甲信越大学体育大会の集合写真

仲間と共に繋ぐ
体育会男子バレーボール部

野呂　壮吾
（身体文化専修体育分野三年）

私たち埼玉大学体育会男子バレーボール部は、週四日（リーグ戦期間中は週五日）、埼玉大学の総合体育館で活動しています。令和七年六月に四年生が引退し、現在の部員数は、三年生が四名、二年生が三名、一年生が一名の計八名です。年間を通して北関東五大学大会、関東甲信越大学体育大会、関東大学リーグ戦大会の三つの大会があります。私たちは関東大学バレーボールリーグ四部に所属しており、九月下旬から行われる関東大学リーグ戦大会では、三部昇格を目標に日々練習に励んでいます。

私たちがこれらの大会に出場し、バレーボールに取り組むことができている背景には、ＯＢやＯＧの方々のご尽力と多くの方々からのご支援があり、日頃から大変感謝しています。

体育会男子バレーボール部の特色として、他学部・他学年の学生と関われること、人数が少ない分、効率的な練習を行うことが挙げられます。また高等学校では監督が行っていた練習メニューを考えたり、練習試合を組んだりする業務は学生が行います。さらには、試合で得た反省点を持ち帰り、学生同士で練習メニューを考えるなど、主体的に部活動に取り組んでいます。サークルなどに比べ、活動量は多いものの、自分たちの目標に向かって互いに切磋琢磨していく時間は他の何物にも代え難いです。

私たち体育会男子バレーボール部は、「繋ぐ」を常に意識しています。これはバレーボールにおいてだけではなく、四年生の意思を後輩に引き継ぎ、埼玉大学のよさを伝えていくという意味でもあります。これからも目標に向かって精進してまいります。今後ともご支援・ご声援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

関東大学バレーボール大会の集合写真

キャンパスライフ　サークル紹介

文化系

和楽器の音色に心を寄せて
邦楽部琴吹会

村田　七星
（乳幼児教育コース三年）

こんにちは。埼玉大学邦楽部琴吹会（ことぶきかい）と申します。一九七〇年に三曲同好会として創部された、埼玉大学唯一の邦楽を行う部活動です。箏、三絃、尺八の演奏を目的とし、週に二回練習に励んでいます。また月に一、二回、外部講師にお稽古をつけていただいております。

主な活動は、新入部員のお披露目となる「七夕演奏会」、むつめ祭での「和楽器コンサート」、そして一年間の集大成としての「定期演奏会」です。その他、外部からご依頼をいただき、演奏を行っています。

和楽器に対して、難しそう、古典的等、近寄りがたい印象を持つ方も少なくないかと思います。しかし、毎年、新入部員の約半数は、大学で初めて和楽器に触れ、お稽古や練習を通して演奏の技術を身に付けていきます。また、演奏する曲は、古典曲のみでなく、複雑なリズムを奏でる現代曲や、懐メロ、アニソンなどもあります。聞きなじみのある曲でも、普段とは異なる雰囲気を感じることができます。

和楽器の合奏には、指揮者がいません。曲の開始や終了の合図は、前方の演奏者の体の動きのみです。演奏中のテンポの加速や減速、音色などは、他の人の音を聞きながら調整しています。また、楽器ごとに難しいポイントが異なることも多く、皆で意見を出し合いながら、日々練習を重ねています。

これからも、より多くの方に、和楽器の音色に親しみをもち、楽しんでいただけるよう、練習に励んでまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年度の定期演奏会の様子

話して、聞いて、考えて「楽しい」を創り出す
放送研究会

小林　朋生
（特別支援教育コース三年）

埼玉大学放送研究会です。放送研究会は十六名で活動しています。皆さん、突然ですが一つ質問です。放送研究会と聞くと、どのような活動を思い浮かべますか。校内放送、映像制作、レコーディング…など様々だと思います。今日は埼玉大学放送研究会について紹介させてください。

放送研究会では、主にラジオの収録、講演会の司会などを行っています。ラジオの収録では、実際の放送でトークを行うパーソナリティ、音響効果を操作するミキサー、内容を企画するディレクターに分かれて一回の放送を作り上げます。どの役割もラジオ作りにおいてかけがえのない存在です。ラジオを聞く人、そして自分たち自身が楽しめるようにラジオを作っています。また、ラジオとはジャンルが異なる、講演会などの司会業にも力を入れています。二〇二五年の四月には放送研究会のメンバーが、大学の入学式の司会を行いました。

放送研究会の魅力は、先輩後輩関係なくフランクに話をしたり聞いたりすることができる点だと考えます。普段の雑談だけで、ラジオを一本収録することができます。ラジオ収録時以外でも笑いが途切れません。自分たちが心の底から楽しみながら活動に取り組んでいる部分が、放送研究会の大きな魅力だと考えます。

最後になりますが、放送研究会は今後も仲良く、楽しく、時には問題に対して意見を出し合い、お互いを高め合いながら活動を続けていきます。大学生ならではの視点で、少しでも多くの人を笑顔にできるラジオ作りを行いたいです。今回のサークル紹介を読まれた皆さんが、ちょっとした時間にラジオを聞いてみようと思ってくだされば、とても嬉しく思います。今後とも、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

ラジオを収録している様子

キャンパスライフ　ゼミ紹介

専門性の高い教員を目指して

自然科学専修 算数・数学分野 二宮裕之研究室
四年　門叶　翔汰
教職大学院二年　宮武　昌杜

算数・数学分野には、代数学、幾何学、解析学、離散数学、数学教育学のゼミがあります。二宮ゼミは、数学教育学を専門とし、算数・数学教育の理論・実践について、各自の研究テーマをもとに二宮先生から熱心かつ親身なご指導をいただいています。

二宮ゼミでは、学部生に加え、院生や現職の先生方とともに、自主ゼミと本ゼミの週二回活動しています。自主ゼミでは学生・現職教員のみで、ゼミでの発表レジュメの検討や、数学教育に関するディスカッション、教材研究を行っています。本ゼミでは各自の研究成果を発表し、二宮先生からご指導をいただくことで、卒論、修論の作成に向けて日々研究を進めています。学年を超えた縦のつながりがあることは、二宮ゼミの大きな魅力です。

また、二宮先生がご指導される授業研究会に参加することで、学生のうちから現職の先生方の授業を数多く参観することができます。加えて、教育実習や実地研究での研究授業のご指導もいただき、理論だけではなく実践の部分でも学びを得ることができることは、教員志望の学生にとって大変有意義です。

大学院生の多くは、各自の研究の成果を学会で発表することにも取り組んでいます。全国から集まる多くの参加者の前で発表をするのは非常に緊張するもので、大学院二年生になった今も、その緊張感には慣れる気がしません。しかし、他大学の先生方からご意見をいただける貴重な経験となります。

その他にも二宮ゼミでは、季節毎の懇親会でゼミ生の交流を深め、年末の「新算数教育研究会湯河原セミナー」は様々な学びを得るとともに、忘年会を存分に楽しめる二宮ゼミの一大イベントになっています。

このように二宮ゼミでの日々は、教員を志すゼミ生を大きく成長させてくれると感じています。

ゼミの絆はピカイチ

特別支援教育コース 三橋翔太研究室
四年　佐々木　皐太

私たち三橋ゼミは、四年生五名、三年生五名の計十名から構成され、主に心理学を専門的かつ実践的に学んでいます。ゼミ生同士の距離が近く、学年の垣根を越えて協力し合える雰囲気が魅力です。三橋先生の温かく丁寧なご指導のもとで、互いに刺激し合いながら心理学や教育への探求心を育てています。

本ゼミの大きな特徴は、卒業研究において、全員が実際のデータ収集から分析までを行う点にあります。他のゼミでは文献研究が中心となる場合が多い中、私たちのゼミでは、大学生や知的障害児の方々を対象にアンケート調査や様々な検査を実施し、その結果を基に分析・考察を進めていきます。実際の現場でデータを取ることは決して容易ではなく、思うような結果が得られなかったり、調査先までの移動や準備に多くの時間を費やしたりと、壁にぶつかることも少なくありません。そんな時はゼミ生同士で助け合い、三橋先生からアドバイスをいただきながら一つずつ乗り越えていきます。実践を通した学びが深まるほど、教育現場の奥深さや複雑さを実感し、研究の意義を強く感じます。

また、三橋ゼミは研究だけでなく、ゼミ生同士の仲の良さも自慢です。打ち上げやゼミ旅行など、学び以外の場でも多くの時間を共に過ごし、苦楽を分かち合ってきました。お互いを支え合いながら研究を進めてきた経験は強い絆を生み、失敗を恐れず安心して挑戦できる雰囲気を作り出しています。

三橋ゼミでの調査や共同作業、仲間との深い関わりを通して、「教育に携わることの意義」を実感し、現場に寄り添う姿勢を身に付けることができました。ここで得た学びと経験を、私たちはこれからの教育現場で活かしていきます。

同窓生の広場

道徳の見える化

野原　晃

○　ほとんど機能していないとまで言われている道徳の授業。私はそう思っていませんが。教科化というなら、思い切って「道徳」を「見える科」とでもしましょうか。そんなことを考えていた頃、こんな素敵な詩に出会いました。

「確かに〈こころ〉はだれにも見えない／けれど〈こころづかい〉は見えるのだ／それは人に対する積極的な行為だから／同じように胸の中の〈思い〉は見えない／けれど〈思いやり〉はだれにでも見える／それも人に対する積極的な行為なのだから／あたたかいこころがあたたかい行為となり、やさしい思いがやさしい行為になるとき、〈心〉も〈思い〉も初めて美しく生きる／それは人が人として生きることだ」

（宮澤章二「行為の意味」）

授業中はもとより、教育活動全般、生活の中においても「道徳的実践」が「積極的な行為」として習慣化し、市民の方々にも「見える」ようになれば最高です。

（埼玉県道徳教育推進協議会会長・野原晃・教育さいたマガジン・平成二十九年二月）

○　皆さん、こんにちは。教育長の野原晃でございます。

本日は、江南北小学校の道徳委嘱研究が、このように盛大に、発表の運びとなったことに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、ずいぶん以前、昭和五十四年の暮れのことでございます。県の基準教育課程、現在の編成要領の改訂協力委員会道徳部会の打ち上げに、大宮駅西口の、通称どぶ板通りを訪ねた時のことです。当時三十二歳の私は、道徳部会の末席を汚していましたので、県の指導課の道徳担当のK先生と最後尾を歩いていました。会場となるお店の手前のところで、ヘビースモーカーのK先生は、火のついているタバコを「水たまり」に、ポンと捨て、

「これが、道徳なんだよなぁ、野原さん」とおっしゃいました。

まさしく、私の道徳の原点はここにあったのです。

本日受付でお渡しした、「道徳の見える化」も、わが熊谷市のリーフレット『道徳の見える化』も、江南北小学校の研究発表も根っこの部分は同じでございます。

（令和六年十一月二十七日）

（昭和四十五年卒）

往事茫茫ですが・・・

大塚　基司

私は、昭和四十六年三月に小学校課程社会科専修を卒業後、小学校教員として採用され、教育委員会勤務なども経て、東松山市立松山第一小学校で定年を迎えました。現在は、所有地の保全管理（除草作業です）や稽古事（琵琶弾奏）、読書などで日を過ごしています。

埼玉大学に入学した当時の学長は、気象学者として高名な和達清夫先生。ご温顔が今でも目に浮かびます。

部活動では、高校時代から続けてきた剣道部に入部しました。国体出場などの経験をもつ同期生たちとともに、稽古に励む日々でした。九州や関西の地に遠征合宿したことも思い出です。顧問の佐藤顕先生との稽古では、渾身の体当たりに微動だにしない厳のような巨躯と気迫にただただ圧倒されるばかりでした。稽古が終わると、大学の近くにお住まいの佐藤先生を私のオートバイの後部席に乗せてお送りすることがありました。先生の体重で、オートバイの前輪が浮き上がりそうになるのを必死に操作して運転したことも思い出です。剣道部の同期の仲間には、卒業後様々な場面で助言や支援をいただき感謝しています。

もう一つの思い出は社会科専修としての日々です。中学校課程の人たちが集う部屋に出入りし、学友の言動に啓発されていました。後年、県教育局に勤務して、第一回全国環境教育フェアの担当となって四苦八苦していた時、相棒となって助言・支援してくれたのも、専攻生の部屋での知己でした。

卒業論文は「ナチスドイツの東方政策」でした。資料収集も不十分で未熟・不出来な論文を、指導教官の小貫徹先生は、「卒業後も研究を続けていきなさい」と励ましてくださいました。

卒業し教職に就いてしばらくして、埼玉県長期研修教員として、埼玉大学で菊池兵一先生に「算数科におけるわかる授業の展開」をテーマにご指導をいただいたことも思い出です。菊池先生の「算数教育学研究」などの講義は、現場で指導に悩んできた私にとって数多くの示唆に富んだ内容でした。

往事茫茫・・・あの頃のことを思い出すことは僅かになりましたが、良き師、良き友に恵まれた大学時代でありました。生涯の伴侶と知り合うことができたのもこの四年間でした。

（昭和四十六年卒）

戦後八十年　戦争体験を語り継ぐ

増田　正博

二〇二五年は戦後八十年の節目の年にあたり、平和を祈念する行事が全国各地で行われました。

九月二十七日には「第六回あの戦場体験を語り継ぐ集い」が十年ぶりに日本教育会館で開催され、平均年齢九十五歳以上の十四人が「語らずに死ねるか！」をテーマに壮絶な体験を伝えました。フィリピン・ミンダナオ島の密林に逃げ込んだ元日本兵の「まさに地獄絵図だった」という証言や、十三歳の時に東京大空襲で火の中を逃げ惑い、自身は生き延びたが母と五人の姉弟妹を失ったという女性の証言等を、体験者から直接聞く機会を持つことが出来ました。

また、八月二十三日には「第二十三回シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い」が国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で行われ、私は初めて参加しました。と言うのは、亡き父が約六十万人といわれるシベリア抑留者の一人であり、犠牲となった約六万人の方を追悼したいとの思いからでした。

父は平成元年八月に亡くなりましたが、その二か月前から自らの歩みをカセットテープ十三巻に残していました。四年前に、私たち兄弟妹三夫婦が協力し、このテープの音声を元に『我が生涯　増田正治回顧談』を刊行しましたが、その内容の多くを四年半に及ぶ抑留生活が占めています。

昭和二十年八月十五日、朝鮮平壌郊外で終戦。早速ソ連軍が来て武装解除。帰国できる日を待ちつつ北朝鮮の寒い冬を耐え、翌年五月にようやく乗船。日本に向かうと思った船は、ソ連領ポシェット港に。その後シベリア鉄道で中央アジアの捕虜収容所へ移送。

収容所では一日三五〇グラムの黒パン一個とフスマにお湯を注いだ薄いスープだけで、道路や住宅建設・運河造成・石炭採掘などの強制労働に従事させられました。厚生労働省に申請して得たロシア連邦政府からの資料には、父が少なくとも七カ所の収容所を移動させられた年月日の記録があり、父の記憶の正しさが確かめられ、その足跡を辿ることが出来ました。

回顧談の編集を契機に、舞鶴引揚記念館を訪ねたり、種々の平和祈念講演会に参加したりして学びを深めてきました。そうした中、講演の依頼があり、多くの方に父の抑留体験を伝えることが出来ました。死期が迫る中、自らの体験をテープに残した父の想いに応えることが出来た、と感じています。

今後も戦争の実像を学び語り継ぎ、平和への道を探る活動を続けていきたいと考えています。

（昭和四十八年卒）

感謝、多くの出会い等に

細野　千尋

埼玉大学学生時代、体育会系運動部に所属していました。入部をすると、次第に授業の合間をぬってまでも、日々コートに行き練習をしていました。その部は関東学連にも登録しており、大学間等様々な試合がありました。出場できるようになると、技術面はともかく、メンタル面ではずいぶん鍛えられた気がします。特に、私大の最強選手？と試合をした時、全く相手の力に及ばなかったことは、貴重な体験・経験になりました。そして、この大学時代に運動をしていたことは、現在までの健康体の一助になっているのではと思う時があります。

卒業後は教職の道に進み、一教諭一担任として子供たちと楽しくも奮闘していた日々。また、教職人生を振り返れば、新任校から転勤した学校等で多くの諸先輩の皆様との出会いがあり、若き学生時代の漠然とした「働くということ」の想像外の現在に至っています。勧められるままに教頭選考挑戦者となったことは、広く教育・学校教育に対する新たな学びの始まりとなり、改めて自分自身のその後の教職人生に対する意識変革になりました。教諭から教頭職一年を経た後は、市や県の教育行政職に携わらせていただくこととなり、校長経験後も再び教育行政職、定年時は校長で終えました。

定年後も市教委と大学講師勤務を続け、大学を十年で満了後は、市教委勤務のみ現在も続いています。このような中、現職中からＯＧとの教育関係団体に所属、種々の役員をさせていただきましたが、定年後も役員が続き、本年令和七年度からは、全国教育女性連盟（現職・ＯＧ会員で組織、埼玉教育女性入間野会の上部団体）の会長を拝命しまして、週三日勤務と共に会長職に携わっております。

長年教育職を学校や教育行政で経験させていただいたことは、教育関係団体の役員、長をしていく上で非常に大きな体験・経験であったと感じる日々です。それは、多くの人たちとの出会いが、自分を支え育てていただいたことに他なりません。少子高齢化の昨今、コロナ禍を経る中、所属団体の会員減という大きな課題等に直面していますが、このような中であるからこそ、様々な人とのつながり、次代につなげていくとは、と考える日々です。

現在まで健康でいられること、多くの人たちとの出会いや学び、協働の機会等に感謝しております。

（昭和五十一年卒）

俳句への途（みち）

山﨑　和恵

元音楽教員、退職後の教育・教養は、地元川口のまちにあったのです。すてきな先生方との出会いにより、新たなチャレンジが始まりました。ときどきの思いを俳句で綴らせていただきました。

一年目。なぜか無性にお伊勢参りがしたくなりました。

◆伊勢講のお札百年梅一輪

二年目。ハタヨガとの出会い。

◆号礼の聞こゆる先に若楓

三年目。父逝去。義母（九十五歳）の施設への入所。

◆不器用な父の口ぐせ菊根分

四年目。まちゼミからマンツーマンでの着付けのお稽古四年間。

◆譲られし単衣の生絹梳る

七福神の寺で、月輪観・阿字観を修する瞑想のひととき。

◆十二月八日幾度瞑想朝日享く

◆色のなき風の中なる写経かな

五年目。四国お遍路第一回。

◆秋うらら行くも帰るも九十九折

六年目。四国お遍路第二・三回。

◆まことの眼拝す小春の大師さま

七年目。四国お遍路。結願。

◆ほら貝の満願成就紫木蓮

八・九年目。コロナ禍、夫の主宰する俳句雑誌「紫」の手伝いを通し、夫婦二人三脚の始まり。

◆新玉のお砂踏みめく画廊かな

十年目。俳句が楽しくなり、夫の勧めもあり、俳号・東目和恵。

◆春眠をチャボに起こされストレッチ

十一年目。孫娘の成人式に親子三代で着物を着ての記念写真。

◆着付けする母から子へと花八手

ＮＨＫ俳句、第九回龍太賞で、第一次選考通過の喜び。

「一振りの力」十五句作品抄

◆二月果つ奥出雲より玉鋼

◆一振りの千年のとき旱星

◆見極める研師の素手や夏館

◆刀身の柄巻のひも大西日

◆踏鞴踏み極めし地鉄月天心

十二年目。ご詠歌のお稽古を始め、初めての検定に合格。

◆夏座敷静寂広げる鈴の音

最上三十三観音巡礼。結願。

◆はだれ雪ぐるりと回る月の山

◆川前の山藤揺らす最上川

◆河鹿鳴く義経何処なりしかな

退職十三年目。ご詠歌のお稽古も丸二年となり、二回目の検定で十月十日に無事合格できました。

ときどきを振り返ると、ヨガが週課に、着物大好き、神仏を大事に、親孝行の娘に。熱心な先生方のお導きに感謝したいと思います。一番の成果は、俳句を作れるようになったことです。俳句歴六十二年の夫の存在が大きく、とても感謝しています。

◆喜寿なるや汝れ甘柿か渋柿か

◆いっときの変身赤きアマリリス

（昭和五十二年卒）

記憶をたどって

鈴木　トミ江

三十八年間の教員生活を終えてから十年が過ぎました。現在は目の前の出来事に一喜一憂する平穏な日々を過ごしています。

「教師になりたい」と思ったのは中学二年の頃でした。高校は大学進学を念頭に置きつつ、ソフトボールと勉強の両立に悪戦苦闘の毎日でした。

幸いにも埼玉大学に入学でき、小学校教員養成課程で学ぶことができました。ところが、大学二年、三年と断続的に入院することがあり、卒業に必要な単位が取得できるかどうかはらはらしていました。

そんな中、一年生で受講した教養学部の永野教授による「植生」の講義とフィールドワークが印象深く心に残っています。当時は樹木や植物の植生の奥深さに魅了され、図鑑や資料、地図を集め、時間があると空き地や道端、雑木林に目を懲らし歩き回りました。

四年生では地理学の福宿教授のもと、卒論に取り組みました。地域調査に魅力を感じ、課題、文献の事前調査、仮説設定、現地調査、分析と検証、結果のまとめと、完成まで時間を要しましたが、実に面白かったです。聞き取り調査の生の声には、予想を超える新事実を突き付けられ、何度も悩まされました。この時初めて「足を運び耳を傾ける大事さ」を痛感しました。無事卒業でき、ご指導賜った福宿教授に深く感謝しています。

教職に就いて幸運だったのは、一学年が四から六学級ある学校での勤務が多かったので、授業でも学級経営でも、力量のある、熱い志の先輩がたくさんいたことです。

学年会や授業研究会での忌憚のない意見や活発な協議、普段の厳しいが気配りのある指導など、年齢に関係なく切磋琢磨する姿は「学び続ける教師こそ教える資格がある」という私の目指す教師像の礎になりました。

「夢に出てくる程手のかかる子に、一ミリでも成長の兆しが見えると一気にそれまでの苦労を忘れ、また頑張れる」子供の成長の喜びは、私の原動力にもなりました。

管理職にあっても、学び合う教師集団に支えられ、市町を越えたネットワークで助言や支援を得ることができ、幾多の困難も乗り越えることができました。これまでの多くの出会いと、関係各位のご指導ご鞭撻に感謝しきりです。

今回記憶をたどり、私の授業研究や課題解決の源流が、大学での荒削りな調査研究にあったことに気付きました。植生の知識は趣味の園芸に生きています。自らを振り返る機会をいただき、役員の皆様に感謝いたします。（昭和五十三年卒）

教育に携わって四十七年

伊藤　美由紀

大学で充実した時を過ごし、念願の小学校教員として仕事を始めてから四十七年が経過しようとしています。多くの人に支えられ、健康で勤め続けることができたことに感謝するとともに、振り返ると日本の教育の大きな変化の中に自分が居たことに気づきます。

変化としては、まず児童生徒数が挙げられます。就職当初は児童生徒が急増した時期で、各市町村で学校分離と開校が続きました。しかし、現在では、少子化が進み、閉校や学校の統合が相次いでいます。一学級の児童数も四十五人学級から三十五人学級となり、一人一人により目が届くようになりましたが、四十五人学級の中で逞しく成長した子供たちの笑顔を懐かしく思い出します。

教員の仕事に目を向ければ、事務用品一つをとっても大きく変わりました。新任の時に配られたのは、ガリ版と鉄筆でした。指導案も子供や保護者への配付物も勿論手書きです。それが今は、教師にパソコンとタブレットが配付され、授業での様々な活用や教師同士がデータを共有したりネット上で会議ができたりするだけでなく、保護者との連絡までオンラインで可能となっています。道具が変化しただけでなく、「働き方改革」の名のもとに教員の働き方も大きく変わろうとしています。

日本の学校教育における半世紀近くの変化は語りつくせないほどありますが、変わらない大切なものもあります。それは、「子供たちの伸びゆく力を信じ、資質・能力の育成に努力を惜しまない教師の姿」と「懸命に伸びようとする子供たちの姿」です。私は一九七七年の「ゆとりある充実した学校生活」を目指した学習指導要領の改訂から現行学習指導要領まで、五回の改訂の中で仕事をしてきました。時代の変化を背景に未来を担う子供の教育の在り方も変化しましたが、いつの時代も、学校現場には変化を真摯に受け止め子供たちのために努力する教師の姿がありました。

「未来は先行き不透明」と言われる中で、今、学校では、「子供は有能な学び手である」という原点に立ち、ＩＣＴ環境を効果的に活用しながら「教師が教え込む授業」から「子供が自立して学ぶ授業」への転換が図られています。若き教師が教材研究を深め、真剣な眼差しで主体的に学ぶ子供たちを温かく支え導いている姿を見ると頼もしさを感じます。これからも教育の最前線に立つ先生方にエールを送り続けたい気持ちでいっぱいです。

（昭和五十四年卒）

卓球と共に

竹田　聡

埼大の同級生や先輩後輩に会うと「卓球は？」とよく聞かれます。どうやら私は卓球ばかりしていたと思われているようです。

教員になろうと思ったのは、中学の卓球部顧問の先生との出会いでした。中学三年の一年間だけでしたが、その先生に憧れて、同じ高校、大学に進学しました。

埼大卓球部には軽い気持ちで入部したところ、三学年上に強い先輩がいました。強い理由は、シンプルに動きが速く正確だからです。その先輩に少しでも近づきたくて、速く動けるようにとひたすら動く練習をしました。平日は午後四時から九時まで、旧第二体育館で練習し、土曜日はランク戦がありました。時には、練習後に北浦和の焼き鳥屋「鳥高」で反省会もありました。入部して三、四か月もすると、成果が表れ勝ち始めました。中学、高校時代は全く勝てなかっただけに、嬉しくて一層練習に打ち込むようになりました。更に強くなりたくて、県内トップクラスの卓球クラブ「親球会」を、ある先輩に紹介していただき、高いレベルで練習をしました。そのお陰もあり、北関東五大学卓球大会の男子単で三年連続優勝もできました。

埼大卒業後は埼玉県中学校教員になり、卓球部顧問にもなりました。また「親球会」に教職員の方もいらしたので、県教職員チームに所属し、いろいろな大会にも出ました。選手としては二十代で区切りを付けましたが、今でも全国教職員卓球大会は毎年参加しています。コロナ禍の中断のため、三年後に四十年連続表彰の予定です。

卓球を続けていると幸運な出会いがあるもので、埼玉県教職員チームに、全日本卓球選手権で八回優勝した斎藤清さんが入られました。雲の上の存在だった方から「竹田さん」と呼ばれるとは、大学時代には考えられなかったことです。ちなみに、斎藤清さんが、全日本卓球選手権通算百勝を達成された際に、新聞各社が前人未踏の偉業を報じた記事をプリントしたマグカップを贈りました。とても喜ばれて、よい恩返しとなりました。

教職に就いて来年で四十年目、定年延長もあり、切りのよい年で定年を迎えます。先のことは分かりませんが、中学生に卓球を教えたくてこの道を選んだので、何らかの形で関わりたいと思っています。来たる日のために、ほぼ毎日ジョギングとジムで筋トレをしています。ただ、やり過ぎの傾向があり、「過ぎたるは及ばざるがごとし」とならないように、自分を乗りこなそうと思います。

（昭和六十二年卒）

つながりを力に

高野　達

埼玉大学在学中、最も力を注いだのは、学業ではなく硬式野球部での活動でした。今となっては反省点ですが、附属中学校での教育実習には、必死に取り組んだ思い出があります。

配属されたクラスの担任が国語科だったため、生徒が行っていた三分間スピーチを実習生も行うことになりました。私は、自分の中学時代の話をしました。担任の先生からは、生徒の視点に立ち、準備と時間を大切にすることを学びました。また、社会科の先生の指導のもと、地理的分野で朝鮮半島を扱う研究授業を行いました。教えるにはその十倍の知識が必要であること、授業に必要な資料を見極めた上で指導案を作成することの重要性を学びました。教育実習を通し、担任や社会科の先生方のように教師としての信念を明確にもち、生徒から信頼される教師になりたいと強く感じました。

卒業後、中学校教員として二校を経験したのち、縁あって附属中学校に勤務しました。教育実習の際に目標としていたお二人と、再び一緒に働く機会に恵まれたのです。自分が教育実習生を指導する立場となると、お二人をお手本とするため、当時の記録を読み返し参考にしたこともあります。

附属中学校には十二支が一巡するほど勤めましたが、教員として特に成長できたと感じたのは、大学時代から顔見知りだった同級生五人と一緒に勤務した経験があったからだと思います。

同じ学年を担当することも多く、四クラスのうち三クラスの担任が同級生という年度もありました。中学三年の担任になると、年度後半は進路指導室にこもって進路業務に取り組む日々でしたが、悩みを共有し、支え合いながら進めることができました。附中祭などの学校行事では、生徒たちを巻き込みながら「同級生のあのクラスには絶対に負けないぞ」と互いに切磋琢磨しました。教員として最も充実していた三十代を、同級生たちとともに過ごせたことを心から感謝しています。

その同級生たちは、今では校長として県内各地区で活躍しています。学校経営などで悩みがあるときには連絡を取り合い、相談することもしばしばあり、アイデアや元気をもらっています。

埼玉大学や附属中学校で得た「つながり」のおかげで、ここまで仕事を続けることができています。これからも埼玉大学や附属学校で学んだ方々が、県内の教育現場で活躍していくことを心から願っています。

（平成三年卒）

人とのつながり

水落　美佳子

私のささやかな自負は「人に恵まれてきた」ということに尽きます。大学時代はもちろんのこと、教員として歩みを進める中で、折に触れてそのありがたさを深く実感してきました。大学時代に共に学び、志を語り合った先輩後輩や友人たち、そして教育現場や行政で出会った多くの方々とのつながりは、私の教育に対する姿勢や価値観を形づくる大切な基盤となっています。思い返すほどに、「人とのつながり」という言葉の確かさを強く感じます。

今年度は多くの学校を訪問させていただき、校長先生方と直接お話をする機会に恵まれました。教員の資質向上、組織としての連携の強化、保護者や地域、行政との信頼関係の構築、さらには新たな課題への対応等々、学校が抱える課題は多岐にわたります。様々な不安を抱えながらも、それでも現有の人的資源を最大限に生かし、最適解を探り続ける校長先生方の姿に、学校は「人によってつくられる場所」であることを改めて確認しています。

現在、子供たちを取り巻く教育環境は大きな転換期を迎え、学校現場には新たな対応が求められています。しかし環境がどれほど変化しても、その中心にあるのは人とのつながりであり、「人の力」だと思っています。

教職に携わるほど、「この仕事には大きな力がある」と実感します。子供たちの成長を間近で感じられる瞬間、悩みながらも前向きに挑戦を続ける先生方と一緒に考え、支え合う時間・・そのすべてが教職ならではの醍醐味であり、私の原動力となっています。だからこそ、次の世代にもぜひ教職に挑戦してほしいと思っています。大変さはありますが、それ以上に「人の成長に関わる」という何ものにも代えがたい喜びと手応えがあります。未来をつくる仕事に携わる仲間が、一人でも多く増えてほしいと願っています。

近年、大学時代の同期と再び語り合う機会が増えました。思い出話に花を咲かせ、それぞれの歩みや課題を共有する時間は、自分自身を振り返り、視点を新たにする貴重な場です。また、旅行などで心身をリフレッシュしながら見識を広げ、自分自身の軸を整える時間も大切だと感じています。こうしたつながりや経験から得た学びを糧に、これからも変化する教育の現場に誠実に向き合い、子供たち、教職員、そして学校全体の成長に寄与できるよう努めてまいりたいと考えています。

（平成五年卒）

私の軸と輪郭

坂井　貴文

小さい頃から自由帳やチラシの裏側に怪物の絵を描くのが好きでしたが、自分の怪物の絵の図鑑をつくるという目標を持ち始めたのが大学時代でした。それは大学時代特有の有りあまる時間がその目標を形作ったのだと思います。

大学時代には本を手に取る習慣も生まれました。大学の講義やゼミなどに触れることで、活字の世界にのめり込む時間が日常に入り込んできたように思います。単に知識を得るためではなく、思考と想像を広げ深めるために読むことを覚え始めたように思います。

高校から始めた柔道を続けるために柔道部に二年間所属しました。志を高くもつ多くの柔道家から、柔道の奥深さに触れることができました。自分には真似したくても真似できないことがあるということを痛感したことを覚えています。家庭の経済状況等の理由もあり、柔道部を辞めることにしました。その後も「来られる時は稽古に来いよ。」と声をかけてくれた先輩や仲間の温かさは今も覚えています。

柔道部を辞めた後、家庭教師と塾の講師のアルバイトを始めました。そんな時期に友達からむつめ祭でダンスをやらないかと誘われました。大学の新入生歓迎会で新入生に楽しんでもらうためにダンスをした経験があったのでやることにしました。それをきっかけにミュージカルサークルをつくるという話になり、その流れでサークルに入りました。やったことのないことでも、流れに身を委ねて、ミュージカルを仲間とつくる経験から、一人一人のよさを合わせて一つのものをつくりだすことの価値や楽しさを味わうことができました。

大学時代は「私の軸をつくり、私の輪郭を形づくることに今も影響を与え続けるもの」であると感じています。

卒業後、埼玉県の小学校教員になりました。川口市での教員を経て、埼玉大学教育学部附属小学校の図工担当の教員になりました。特に、子供は豊かな存在であること、子供と共に教師は学び続けるものであること、図工は自分をつくる教科であることを学びました。

私は現在、埼玉県教育局南部教育事務所で指導主事をしています。市町教育委員会、学校と一体となり、学校の力になることを目指しています。

大学時代から今までを振り返ることで、「創造と教育の、個と社会の交差点に立ち続けること」が「私の軸と輪郭」であることに思いを馳せることができました。

（平成二十年卒）

教員としての三年間と特別支援教育での学び

梅田　大志

私は現在、初任の小学校で特別支援学級の担任として三年目の教員生活を送っています。

私が特別支援教育に関心をもった原点は、大学時代の教育実習にあります。当時はコロナ禍で、実習期間は三週間と短く、三年生、三十九人の学級で実習を経験しました。学級の中では、個性が様々で、周囲の友達の様子を見て動く子、個別の声かけ等の支援を要する子がいることを知り、そのような子供たちに支援をしたいという思いを抱いたことがきっかけです。個別最適な支援が環境の調整や情報の伝え方によって成立していく様子を目の当たりにし、この経験は、専門性の重要性として、現在も私の心に強く刻まれています。

大学生から社会人になり、大学での机上の講義から一変し、実際に目の前の子供と関わっていく中で、初めは机上での学びと実際の子供に応じた対応の方法の違いに戸惑いがありました。大学で学んだ障害の特性にとらわれ、子供を叱れずに甘やかしてしまったこと、反対に、条件を厳しくしすぎてしまったことなどがありました。

その結果、私自身の軸がぶれ、子供が困る姿を目にすることもありました。あそこで叱ればよかったのでは、あのように伝えていれば子供にとって分かりやすかったのではなど対応や声掛けを模索していました。

その過程で気づいたのは、子供は将来どのような形であれ自立するために、今は人に頼る方法や自分で気持ちの折り合いをつける力を学んでいるということです。そこから、子供を第一に考え、「何のためにこの学習をするのか」「そのためにはどのように支援すべきか」を意識することが大切であり、軸をぶれさせないことが子供にとって最も良い支援につながると考えるようになりました。

私が軸としているのは、「子供の目線に立って捉える」ことです。急に次の行動を指示するのではなく、見通しをもてるように情報を先出しすることに加えて、あらかじめ複数の選択肢を提示することで、子供自身が同意の上で選べるようにしています。また、自己決定した行動がたとえうまくいかなかった場合でも、事前に「こういう動きになるよ」と情報を伝え、別の見通しをもたせておくことで、成功も失敗も安心して経験できるよう日々関わっています。

教員を目指している皆さん、困ったときは立ち止まり、様々な場面を想定しながら一つずつじっくりと試してみるのも良いかもしれません。皆さんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

（令和五年卒）

卒業五Ｘ周年同窓会報告

卒業五十周年同窓会

昭和百年　記念すべき同窓会に集う

埼玉大学教育学部　昭和五十年三月卒業生　梅山　健司

令和七年十月十八日㈯、ブリランテ武蔵野において、昭和五十年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業五十周年記念同窓会を開催いたしました。昭和五十年に卒業し、五十年がたった今年は、昭和で言えば百年に当たる年であり、記念すべき年回りであることから、あえて「記念」の文字を入れ、開催することにいたしました。

開催準備に当たっては、教友会学年理事七人（井上馨・梅山健司・野口忠・平賀健郎・松澤勇治・野口英世・小谷野健史）が発起人となり、七回にわたる準備会を行いました。当初は、野口英世さんが代表幹事で進めておりましたが、体調を崩されたため、後任として梅山が務めることになりました。準備会では、会の運営や内容、役割の分担等について、さらに十七名の方々に開催当日の幹事を依頼するなど、細部まで検討し、開催の日を迎えました。

開催案内状は、小谷野幹事が担当し、会員名簿などをもとに三百五十余通を発送し、さらに返信をまとめました。その上で参加意向者を確認し、参加名簿を作成しました（当日の参加者数五十五名）。

当日集まった同級生たち。開場前にも関わらず、久しぶりの再会に、あちらこちらで旧交を温める輪が広がりました。

開会を前に記念撮影を行いました。水谷薫幹事が撮影したデータを持って、野口幹事がプリントに走り、会の途中には参加者全員に記念写真を手渡すことができました。

本会は、井上・佐藤ルミ子両幹事の司会により進められ、平賀幹事の開会の言葉に続いて、物故者への黙祷が捧げられました。

幹事代表の挨拶では、ご支援いただいた教友会への感謝とともに、ご出席いただいた同会会長大澤利彦様へのお礼を、さらに同窓生との再会の喜びを述べさせていただきました。

ご来賓祝辞で立たれた大澤様からは、私どもの学生時代の様々な出来事を丁寧に調べていただき、たくさんお話ししてくださいました。一つ一つの出来事が、当時を鮮やかに蘇らせてくれました。

松澤幹事の乾杯の発声により、会場は一挙に賑やかに盛り上がり、美味しい食事とお酒を楽しみながら、会話を弾ませる素敵な時間が続いていきました。

中ほどで、平賀・武正光江両幹事が司会となり、思い出のコーナーに移りました。野口忠幹事作成の映像がスクリーンに投影され、埼玉大学の沿革のほか、学生時代の写真が紹介され、「あれは誰々だ。」「あの頃は○○だった。」などと、楽しげな会話があちこちから聞こえてきました。

続いて、各テーブルを代表して二分間スピーチをしていただきました。最初に口火を切るお手本役として、林健次、吉澤勝両幹事に話をしてもらいましたが、あの時代の学生の生活が垣間見えるエピソードで、大いに盛り上がりました。お陰で、その後スピーチされた青木美智子さん、丸山昇さん、小林崇代さん、水谷薫さん、大澤章一さんたちも、お酒も手伝ってか、さらに盛り上がるお話をしてくださいました。

思い出のコーナーの最後は、野口幹事の指揮のもと「遠い世界に」の大合唱。懐かしさとともに、別れがたい歌声が響き渡りました。

懐かしい友と再会した喜びとたくさんの思い出が皆の心に蘇った同窓会も、とうとう小谷野幹事先導による締めとなりました。

最後に、井上幹事の会計報告並びに閉会の言葉により、記念すべき本同窓会がお開きとなりました。

陰で支えていただいた当日幹事の新井守、石塚保二、谷村伊都子、丸山昇、松田元子、若林茂次、奥直、鈴木薫、小島佐知子、大熊直美、河野栄子、田中郁子の皆さんに感謝。

卒業四十五周年同窓会

絆が一層深まる

埼玉大学教育学部　昭和五十五年三月卒業生　守屋　敏夫

令和七年十月二十六日㈰正午、三十三名の参加を得て（やむなく欠席ながら、一八八名から近況報告等あり）、ブリランテ武蔵野エメラルドの間にて、卒業四十五周年同窓会を開催いたしました。前回が平成三十年十二月二日でしたので七年ぶりの同窓会です。

司会者は幹事の西川和利さんで、開宴前にまず記念撮影。続いて、卒業後にご逝去された同窓生に、謹んで哀悼の意を表して黙祷を捧げました。

久保寺光明幹事による開会の言葉に続き、吉田睦代代表代理幹事による挨拶は、代表幹事の田村俊一さんの話（急遽の入院で欠席されたこと）、皆さんが元気に集まれたことを幸せに思うこと、免疫力は笑いで高まる旨の挨拶で、一気に同窓会開催のボルテージがあがりました（田村さんにはハガキの発送や取りまとめ、準備や手配の一切を担っていただきました）。

教友会事務局長である松澤勇治様による祝辞は、教友会支援の「卒業五X周年同窓会」のご紹介と三つの「ショク」を大切にしているというお話（①食べるショク：日本の伝統的な食事の大切さ　②触れ合うショク：触れ合うことと一歩踏み出すこと　③職業のショク：無理のない範囲で働き続けること）をいただき、感銘深く拝聴させていただきました。最後に、教友会顧問の金子美智雄様がまとめられた「埼玉大学の今昔」と「埼玉大学創基一五〇周年記念年表」のご紹介や「埼玉大学ホームカミングデー二〇二五」溝口紀子氏のご講演のご紹介、そして最後に、この会で皆様の絆が一層深まることを願っておりますとご挨拶をいただきました。

そして、関根隆之幹事による乾杯の発声。関根さんには事前に大学に趣いて同窓会冊子の表紙（正門から見た大学風景）を描いてもらいました（当時の木がとても見事な木々となり、立派な大学になったとの紹介も付け加えてありました）。

いよいよ、歓談です。各テーブルが大変盛り上がり、いつの間にかテーブルを越えて会場が大賑わいとなりました。

司会の西川さんから、テーブルごとに一番遠方より参加された方に挨拶をいただきたい旨の話があり、跡部和恵さん、毛塚悟さん、設楽政夫さん、濱口正巳さん、森野重明さんらが快く引き受けてくださいました。近況報告や大学当時の思い出等を限られた時間ながら語っていただき、大いに盛り上がりました。突然のご指名にもかかわらず、ありがとうございました。

余興で、岩崎功さんと渡辺肇さんにギター演奏をしていただきました。四十五年前の当時の流行曲：森田公一とトップギャランの「青春時代」、井上陽水の「夢の中へ」、チューリップの「心の旅」の三曲を続けて弾いていただき、会場のみんなで手拍子や口ずさんで盛り上がりも頂点に達しました。

最後に、小学校課程代表の中村一夫さんと中学校課程代表の三谷暁男さんに締めをお願いしました。三谷さんは、再会できたことに感謝して万歳三唱をいたしました。

小林幸美幹事から「健康でまたお会いできる日、卒業五十周年同窓会を楽しみにしています。」と閉会の言葉をいただき、終宴となりました。

諸連絡として、吉田睦代代表代理幹事より口頭による会計報告があり、皆様よりご承認をいただきました。

あっという間の夢のような二時間三十分で、参加者の絆が一層深まりました。教友会のご支援や皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

五年後は、より大勢の同窓生が健康で元気に参加いただけることを願いながら、卒業四十五周年同窓会の報告といたします。

退職時期同窓会

四十年の歳月を越えて

埼玉大学教育学部　昭和六十一年三月卒業生　石井　宏明

澄み渡る青空のもと、穏やかな天気に恵まれ、私たちは、十一月二十二日土曜日、ホテルブリランテ武蔵野二階「エメラルド」において、ご来賓として、教友会副会長の高瀬浩様をお迎えし、退職時期同窓会を開催しました。

私たち昭和六十一年三月卒業生は、合計五百六十七名おりました。その内、連絡先が分かる方二百五十一名に同窓会開催の案内を差し上げたところです。その後、各専攻・専修ごとに口コミで広がり、お蔭様で、八十一名の同窓生が集い、盛大に開催することができました。参加者の中には、海外から駆けつけていただいた方、また、熊本県や三重県、秋田県など遠方から参加いただいた方もおり、当初、どれだけの参加者となるか心配しておりましたが、多くの方に参加いただいたことに、幹事（学年理事）一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

開会に先立って、記念撮影を行いました。その後、仲間の物故者に黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。そして、ご来賓の教友会副会長の高瀬様が入場されました。

司会は、幹事の金子正さんと渡邉祐子さんです。幹事の山田浩一さんの開会の言葉で、いよいよスタートです。

まず、私が、幹事代表として挨拶を申し上げました。

次に、ご来賓の高瀬様からご祝辞をいただきました。まず、退職を迎えられたことに対するお祝いの言葉。人生百年時代を迎え、今後それぞれの人生を歩み、「自分物語」の続きを創ってほしいと激励されました。また、教友会事業の説明、当日開催されたホームカミングデーの報告がありました。

そして、幹事の肥土耕一さんより乾杯の発声があり、いよいよ歓談です。会場は、九テーブルで、一テーブル八人～十人が座っています。専攻・専修ごとに座席を工夫したことにより、乾杯後は、すぐに和やかな会話が始まりました。近況報告や学生時代の思い出など、大いに旧交を温め、語り合っています。杯を重ねるごとに次第に賑やかになり、還暦を過ぎた者同士ですが、まるで、学生時代に返ったようです。

続いて「ビンゴで『近況＆思い出話』」です。山田浩一さんの進行のもと、ビンゴゲームを行い、先に「ビンゴ」になった方に近況報告や思い出についてスピーチしてもらうという企画を行いました。埼玉大学公式キャラクターの「メリンちゃん」グッズを賞品や参加賞として用意しました。先に六名の方が「ビンゴ」となり、賞品を受け取るとともに、スピーチをしていただきました。思い出や近況について、ユーモアを交えてのスピーチで大いに盛り上がりました。

締めと閉会の言葉は、幹事の長江清和さんです。

その後、記念写真の配付方法や会計報告などについて連絡し、閉宴となりました。

あっという間の二時間三十分。閉宴後は、参加した皆さんが、なごり惜しそうに会場を後にしました。その後も、多くの方々から、私ども幹事への慰労の言葉や次回同窓会への期待の言葉など、多数のメールをいただいております。「お陰様で、楽しい同窓会でした」「久しぶりに友達に会えてよかったです」「幹事の皆さん、本当にありがとうございました」「また、皆さんで集まりたいですね」など、幹事一同、感無量です。

結びに、「退職時期同窓会」開催にあたり、多大なご支援をいただきました教友会の皆様に深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業三十周年同窓会報告

同窓の「ご縁」に感謝して

埼玉大学教育学部　平成七年三月卒業生　大井　敏彰

令和七年九月十三日㈯、ブリランテ武蔵野において、平成七年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業三十周年同窓会が開催されました。十五年前に卒業十五周年同窓会を開催してから二回目になりますが、前回は参加者が十名程しか集まりませんでした。そこで今回は、「参加者数三十名」を目標にして準備を進めることにしました。

案内の発送は五月下旬に行いました。教友会事務局からいただいた宛名ラベルを使用して、約七〇〇名の同窓生のうち、名簿に住所が掲載してある一八二名に案内を発送しました。案内には、二種類のＱＲコードを掲載しました。一種類は出欠回答フォーム、もう一種類は案内のＰＤＦをダウンロードできるようにして、郵送できない方への拡散をお願いしました。

回答締切を七月二十二日に設定して回答を待ちました。六月末時点で参加申込は十名弱であったため不安でいっぱいでしたが、残り一週間で参加申込が増え、締切時には二十七名の参加申込がありました。目標の三十名には届きませんでしたが、前回の倍以上の参加者が集まったことに、ほっと胸をなでおろしました。

参加者確定後、皆さんに喜んでいただけるよう八ページのしおりを作成しました。次第や参会者名簿の他、回答していただいた情報を基に、近況報告集をまとめました。その際、埼玉大学のキャラクター「メリンちゃん」の画像を使用できるよう、埼玉大学の事務局に申請し、しおりに掲載しました。

また、学年理事は私と塩﨑陽子さんの二名しかいなかったため、当日の協力者を募ったところ、阿部亮介さん、今田裕子さん、太田禎治さん、中島豊さん、辺見万希子さんが、快く引き受けてくれました。何とも心強い仲間を得て、当日を迎えました。

同窓会当日、午後一時に幹事七名で集合し打合せをした後、受付を開始しました。受付は今田さん、辺見さんが担当してくださり、笑顔で参加者を迎えてくれました。

参加者が参集した後、会に先立って記念写真を撮影しました。撮影後、円卓に着座し、いよいよ開会です。司会は太田さんと中島さんに務めていただき、中島さんの開会の言葉で卒業三十周年同窓会が開宴しました。

僭越ながら、私が幹事代表のあいさつをさせていただき、ご参会いただいた皆様に歓迎の言葉と感謝の気持ちを伝えました。続いて、ご来賓である教友会副会長の秋本文子様からご祝辞をいただきました。秋本様はご祝辞の中で、教育学者の森信三さんの言葉を引用し、「ご縁」のお話をしてくださいました。秋本様のお話を聴きながら、卒業して三十年間、離れ離れになっていた私たちの心が、「ご縁」という言葉でつながっていくことを感じました。その後、塩﨑さんによる乾杯の発声で歓談に移りました。各テーブルでは、大学時代の思い出や現在の様子を語り合い、賑やかに旧交を深めていました。

暫くして、司会が太田さんに交代して第二部「近況報告」が始まりました。太田さんは社会を専攻しており、遠方の参会者から順に指名しながら、軽快な口調で地理的な情報を織り交ぜながらユーモラスに進行してくれました。トップバッターは、愛媛県から夫婦でご参加いただいた酒井さんです。その後、一人一人の話が続きました。学生時代はあまり交流がなかった間柄でも、同窓の「ご縁」を感じながら大学時代を共にした仲間の話に大いに盛り上がりました。

二時間半はあっという間に過ぎ、最後は阿部さんの締めでお開きとなりました。解散する前にＬＩＮＥグループを作成して写真を共有しました。そして、五年後の再会を約束して帰路につきました。

結びにあたり、本会の開催にあたり多大なるご支援・ご協力を賜りました教友会事務局の皆様、素敵な会場を提供してくださったブリランテ武蔵野の皆様、そしてご参会いただいた皆様に深く感謝申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

卒業二十周年同窓会

笑顔と絆でつながる二十年の歩みと、未来への約束

埼玉大学教育学部　平成十七年三月卒業生　若村　健一

令和七年八月十六日㈯、ブリランテ武蔵野において、平成十七年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業二十周年同窓会が開催されました。当初は、卒業十五周年での実施に向けて準備を進めておりましたが、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、延期を余儀なくされ、卒業二十周年での実施となりました。

教友会名簿で確認をしますと、平成十七年三月の教育学部卒業生は、五五三名でした。そのうち、連絡可能な方は百二十九名ということもあり、また、開催日はお盆明けの時期ということもあり、当日何名の出席があるか幹事として心配でした。

今回の同窓会では、グーグルサイトでホームページを作成し、そこに当日のチラシを掲載したり、当日に係る情報を掲載したりして、できるだけ多くの人に参加してもらうことができるよう周知に努めました。実際にホームページ上で二次元コードから申し込みもできるようにして、当日の出席者は、学年理事も含め、二十一名でした。ありがたいことに遠方からかけつけてくださる方もいらっしゃいました。

参加の人数は少なかったですが、当日は専修を超えて参加者同士が当時の思い出話に花を咲かせるなど、会場が学生時代に戻ったかのような雰囲気となりました。

当日は、開会に先立っての写真撮影の後、司会である島田直也幹事からの開会の言葉で開宴しました。

開宴ののち、教友会からご来賓としてお越しいただいた副会長である福島正美様から、ご祝辞を賜りました。福島様からは、現在の埼玉大学のことについて、当時と重ね合わせながらお話をいただきました。また、卒業生である私たちに向けて、昔のことが今につながっており、大変なこともちろんあるが、充実した毎日を過ごせるようにしてほしいとエールをいただきました。

次に、障害児教育コースに在籍していた三浦駿介さんの乾杯の発声により、歓談がスタートしました。席を固定せず、立食としたことで、参加者がテーブルを転々としながら、大学時代の思い出や現在のことについて、話す様子が多く見られました。会を通して笑顔や笑い声が途切れることのない、終始にぎやかな会となりました。

当初予定はしておりませんでしたが、歓談の中で急遽一人一人からスピーチをいただくことにしました。一人の持ち時間を三分としましたが、三分で収まる参会者はほぼおらず、それぞれが大学時代の思い出や大学卒業後から現在までの様子や近況について熱く語っている様子が大変印象的でした。話を聞いている参加者からは、時折笑いが起こったり、拍手が起きたりするなど、会場が一体となって盛り上がる様子が見られました。参加者それぞれが、これまでの二十年を振り返り、専修は違えど同じ大学で学んだという共通の土台や仲間の存在を感じ、大きな励ましや支えになったようなそんな時間でした。

会の締めは、第一の締めを総合教育科学専修の土屋智治さんから、第二の締めを英語専修の三國寿之さんから、そして大締めを幹事を代表して若村が行い、盛大に締めくくることができました。

参会者からは「ぜひまたこのような機会があれば参加したい」「十年後の再会も楽しみ」との声が多く上がり、幹事としては開催してよかったと安堵しているところです。

本会を開催するにあたっては、新型コロナウイルス感染症の関係で延期になってから五年の時が経ってしまいましたが、二十周年という節目の年で開催が実現できたことは、ひとえにご支援・ご協力をいただいた教友会の皆様のおかげと深く感謝しております。

結びになりますが、教友会事務局の皆様、ブリランテ武蔵野のスタッフの皆様、参加していただいた皆様に感謝申し上げ、卒業二十周年同窓会の報告とさせていただきます。教友会のますますのご発展を祈念しております。

誠にありがとうございました。

卒業十五周年同窓会

懐かしさと喜びに包まれて

埼玉大学教育学部　平成二十二年三月卒業生　肥田　幸則

令和七年十一月一日㈯、ホテルブリランテ武蔵野二階「エメラルド」の間において、平成二十二年三月卒業生による「卒業十五周年同窓会」が開催されました。大学卒業以来、生活や仕事の拠点を埼玉をはじめ全国各地に広げながら、それぞれの道を歩んできた仲間たちが一堂に会し、懐かしい思い出を語り合い、笑顔と温かな交流に包まれたひとときとなりました。

思い起こせば一年前、幹事の阿部健作さんが

「目標は百名集めましょう。」

と、力強く宣言されたことを今なお鮮明に覚えています。そして、「来てよかったと思っていただけるような楽しい会にしよう」との思いを胸に、幹事一同、当日まで準備と計画を進めてまいりました。特に、一人でも多くの方々にご参加いただくため、全ての専修より代表者を選出し、ＳＮＳ等を活用して積極的に情報発信を行いました。その成果もあり、当日の出席者数は目標には届かなかったものの、最終的に六十二名もの方々にご参加いただき、幹事一同、大変嬉しく思いました。また、当日ご参加いただけなかった方もいらっしゃいましたが、この機会に各専修のグループラインが立ち上がり、改めてつながりを持つ手段が生まれたことは、大きな成果であると感じております。

当日は、司会を幹事の吉田真梨さんが務め、幹事代表挨拶を私が行いました。また、ご来賓として教友会副会長の石田耕一様にご臨席賜り、挨拶を頂戴いたしました。石田様は、私たちが学生時代に埼玉大学の教職支援室に在籍され、日頃より教職を志す学生に温かいご指導を賜った先生であります。当日のご挨拶においても、卒業生の歩みを温かく見守ってくださるお言葉を頂戴し、参加者一同、改めて母校との絆を深く感じることができました。

その後、参加者代表の葛原順也さんに乾杯のご発声をお願いし、会は和やかに始まりました。会場には、子連れの方も安心して過ごせるスペースも設けられており、和やかな雰囲気の中で交流が始まりました。乾杯後しばらくして、全体での集合写真をプロのカメラマンである大村将也さんに撮影していただきました。続いて、各専修より一名ずつ代表者によるスピーチを頂戴し、学生時代の思い出や、卒業後から現在までの歩み、子育てや仕事の近況などが語られました。中には、この「卒業十五周年同窓会」に寄せる熱い思いを述べられる方もあり、会場全体が温かい雰囲気に包まれました。短い時間ではありましたが、お一人お一人が充実した生活を送っていることが伝わり、参会者にとって大変有意義な時間となりました。

会も盛り上がりを見せたところで、本日のスペシャルゲストである元お笑い芸人「大福」として活動されていた三澤良太様（埼玉大学教育学部卒業生）によるスペシャルライブが行われました。「埼玉大学あるある」のオリジナルソングに加え、ユーモアあふれるトークにより、会場は終始笑いに包まれ、参加者にとって忘れがたいひとときとなりました。

余興はさらに続き、幹事の奥田勇司さんご選定による豪華賞品争奪くじ引き大会が開催されました。抽選は石田様にお願いし、当選者には高級和牛、ズワイガニ、ホタテ、ラーメン、温泉旅行（入浴剤）など多彩な景品が贈られました。

最後には、幹事の阿部健作さんより「次の卒業二十周年同窓会は、もっと多くの方々に参加してもらいましょう。」との力強い締めの挨拶があり、盛会のうちに閉会となりました。

結びになりますが、「卒業十五周年同窓会」へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業５X（エックス）周年同窓会　開催等案内

１　卒業５Ｘ周年同窓会について

(1) 埼玉大学教育学部（大学院を含む）を卒業･修了した方は、卒業５年ごとに同窓会を開催することができ、教友会から運営費等の補助を受けることができます。
開催を希望する学年の該当年の学年理事は、相談の上、事務局に申し出てください。ただし、開催を義務づけるものではありません。

(2) 各学年の同窓会は、学年理事の方を中心に開催していただきます。
学年理事を受けていただける方は、現在の学年理事を通じて申し込みをしてください。

(3) 開催予定の前年度の教友会の総会に、学年理事の方にご案内をお送りします。１名は必ず参加してください。総会の際、開催について細かな説明をいたします。
各学年の学年理事については、本紙 26 ～ 27 ページをご覧ください（ホームページにも掲載しています）。

(4) 同窓会の開催にあたってお渡しするものは、次のとおりです。
・各学年の会員の宛名シール（ただし、「令和３年度版会員名簿」に氏名・住所の記載がある方）
・通知送料（往信・返信代）×人数　・通知印刷代　・当日の支援金等、総額で約 10 万円

２　その他、詳細については、教友会総会の際に説明いたします。

卒業５X（エックス）周年同窓会　開催年一覧表

●卒業５Ｘ周年同窓会は、下の表のように実施することとし、開催予定の前年に、開催するかどうかを検討し、決定してください。
※（見方）平成 30 年３月卒業の人は、令和 10 年度に卒業 10 周年となります。
●令和９年度の開催予定の学年は以下のとおりで、令和４年３月卒、平成 29 年３月卒、…昭和 47 年３月卒の学年理事の方は、令和８年内に、学年同窓会開催の有無を検討し、決定してください。

卒業 5X 周年	令和９年度 2027年	令和10年度 2028年	令和11年度 2029年	令和12年度 2030年	令和13年度 2031年	備　考
5周年	令和４年３月卒	令和５年３月卒	令和６年３月卒	令和７年３月卒	令和８年３月卒	卒業後、初回
10周年	平成29年３月卒	平成30年３月卒	平成31年３月卒	令和２年３月卒	令和３年３月卒	
15周年	平成24年３月卒	平成25年３月卒	平成26年３月卒	平成27年３月卒	平成28年３月卒	
20周年	平成19年３月卒	平成20年３月卒	平成21年３月卒	平成22年３月卒	平成23年３月卒	★退職年齢延長による退職年齢の変更について（予定） 令和５年度～61歳 令和７年度～62歳 令和９年度～63歳 令和11年度～64歳 令和13年度～65歳
25周年	平成14年３月卒	平成15年３月卒	平成16年３月卒	平成17年３月卒	平成18年３月卒	
30周年	平成９年３月卒	平成10年３月卒	平成11年３月卒	平成12年３月卒	平成13年３月卒	
35周年	平成４年３月卒	平成５年３月卒	平成６年３月卒	平成７年３月卒	平成８年３月卒	
退職時期	昭和62年３月卒	——	昭和63年３月卒	——	平成元年３月卒	
40周年	昭和62年３月卒	昭和63年３月卒	平成元年３月卒	平成２年３月卒	平成３年３月卒	
45周年	昭和57年３月卒	昭和58年３月卒	昭和59年３月卒	昭和60年３月卒	昭和61年３月卒	
50周年	昭和52年３月卒	昭和53年３月卒	昭和54年３月卒	昭和55年３月卒	昭和56年３月卒	
55周年	昭和47年３月卒	昭和48年３月卒	昭和49年３月卒	昭和50年３月卒	昭和51年３月卒	原則として、最終

●地方公務員の退職年齢は、令和５年度から令和13年度まで、２年に１歳ずつ段階的に引き上げることになりました。
●卒業 35 周年、退職時期、卒業 40 周年同窓会を開催するにあたっては、どの時期に開催するかを学年理事会で検討してください。ただし、原則として、３年以上間隔を空けてください。
●「退職時期同窓会」の在り方については、現在検討を進めており、決定次第お知らせいたします。

令和七年度　教友会事業報告

Ⅰ　本部常任委員会を開催

五月十日㈯、教育学部附属教育実践総合センター内会議室で、本部役員・幹事が出席して開催しました（出席者十八名）。

総会に向けた準備となる議事を中心に審議が行われ、議案はすべて可決されました。

Ⅱ　教友会定期総会を開催

六月二十一日㈯午後一時半から、ホテルブリランテ武蔵野サファイアにて開催しました。

ご来賓の皆様のご出席のもと、本部役員・学年理事等八十二名の参加により、盛大に開催することができました。

令和六年度の事業報告・決算報告をはじめ、令和七年度の事業計画・予算案等の審議が行われ、議事内容はすべて承認されました。

なお、総会後、令和八年度に卒業五Ｘ周年同窓会を開催予定の学年の学年理事に対して、開催の予告及び開催にあたっての詳細な説明を、開催要項に基づいて行いました。

※本年度より、開会時刻を三十分ほど早め、学年ごとの同窓会に向けての打ち合わせ時間を確保しました。

※総会当日の概要は、本誌二十四ページをご覧ください。

Ⅲ　学生終身会員に「終身会員カード」等を送付

本年四月に入会した学生は、二百四十一名でした。この学生に対して、「終身会員カード」と「教友第九十五号」を送付しました。

「終身会員カード」は、附属学校園で開催される研究協議会等に学生として参加する際必要となり、入会者には特典があります。

また、入会者には、教員採用試験対策となる、「時事通信社のＤＶＤを視聴できるＱＲコード付きのテキスト」を送付しました。

Ⅳ　教員採用試験対策模擬個人面接の実施

大学の主催で、教友会のＯＢ・ＯＧを面接員として開催している模擬個人面接を、七月十七・十八日に実施しました。

教員採用試験受験者の減少により、これまでの三日間から二日間の開催となりましたが、十名の面接員にご協力をいただき、約百二十名の学生の参加がありました。

初めて外部の面接員との緊張したやりとりの中で、今後の課題等が見出せたようです。

※模擬個人面接での、面接員からの指導内容や参加した学生の感想等については、本誌四ページをご覧ください。

Ⅴ　卒業五Ｘ周年同窓会への支援

本年度は、次の六学年の同窓会が開催され、教友会として運営費用の一部を支援しました。

○卒業五十周年同窓会
　昭和五十年三月卒業
　代表　梅山健司　学年理事

○卒業四十五周年同窓会
　昭和五十五年三月卒業
　代表　田村俊一　学年理事

○退職時期同窓会
　昭和六十一年三月卒業
　代表　石井宏明　学年理事

○卒業三十周年同窓会
　平成七年三月卒業
　代表　大井敏彰　学年理事

○卒業二十周年同窓会
　平成十七年三月卒業
　代表　島田直也　学年理事

○卒業十五周年同窓会
　平成二十二年三月卒業
　代表　肥田幸則　学年理事

それぞれの学年とも、同窓会当日に向けて、学年理事を中心として計画的に準備が進められ、連絡方法や当日の運営の仕方等、様々な工夫が見られました。

ぜひ、五年後の開催に向け、学年名簿等、作成した資料の整理・保管に努めるとともに、次期幹事に確実に引き継げられるようにしてください。

※各学年の同窓会当日の詳細については、本誌十六～二十一ページをご覧ください。

Ⅵ　教友会ホームページの一部を改訂

本会の活動内容等を、会員の皆様にお知らせする手段の一つとして、ホームページの内容を定期的に更新しています。

「事務局からのお知らせ」には、事業ごとに、その都度内容の概要をお知らせしています。また、「役員・学年理事」、「歴代会長・副会長名簿」については、役員改選が行われた年度を中心に、リニューアルしています。

その中で、「教友会Ｑ＆Ａ」は、「教友会の歴史関係」「入会手続き・特典」「卒業五Ｘ周年同窓会」など、会員の皆様から寄せられた二十余りの質問について分かりやすく答えたものですが、このたび、その内容を全面的に再構成し直すとともに、記述内容の一つ一つについても、詳細な検討を重ね改訂しました。同じ大学で学んだ者として、初めて知る内容も多いはずです。同窓会等の場で、話題にしてみてはいかがでしょうか。

訃報

平成十六年度から平成二十四年度までの九年間、会長として本会の充実・発展のためにご尽力くださいました顧問の清水章夫先生が、令和七年六月二十一日にご逝去されました（九十二歳）。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和7年度　教友会（埼玉大学教育学部同窓会）定期総会　報告

・日　時　令和７年６月21日㈯　13：30～15：00
・会　場　ホテルブリランテ武蔵野　サファイア

司　会　引間　和彦　次　長
福島　正美　副会長

1　開会のことば
2　あいさつ　○会　長　松澤　勇治　会　長
○顧　問　代　表　金子美智雄　顧　問
3　来賓祝辞　○埼玉県教育局　市町村支援部　部　長　吉田　勇　様
○さいたま市教育委員会　学校教育部　次　長　丹　能成　様
○埼玉大学教育学部　学部長　戸部　秀之　様

金子美智雄　顧問

吉田　勇　部長

丹　能成　次長

戸部　秀之　学部長

4　議　事（議長：会則第10条により会長）
(1)　令和６年度　事業報告について……以下　金子美智雄　事務局長
(2)　令和６年度　一般会計・特別会計　決算報告について
(3)　令和６年度　会計監査報告……木村　栄二　監　事
(4)　令和７・８年度　役員について
○会長より委嘱（紹介）
顧問・正副会長・監事・本部常任委員・幹事・事務局・学年理事
○挨　拶　退任役員　金子美智雄　顧問兼事務局長（挨拶・花束贈呈）
蓮見木予子　副　会　長（挨拶・花束贈呈）
木村　栄二　監　事（挨拶・花束贈呈）
市村　和子　監　事（挨拶・花束贈呈）
新 役 員　大澤利彦会長、高瀬浩副会長、秋本文子副会長、金澤清久監事
内田道雄監事、長谷川博本部常任委員、松本浩本部常任委員
森裕子本部常任委員、伊藤秀一本部常任委員、笠原雅広幹事
松澤勇治事務局長
(5)　令和７年度　事業計画について……以下　松澤　勇治　事務局長
(6)　令和７年度　予算について
(7)　その他
①卒業5X周年同窓会について
・令和７年度開催を計画している学年（6学年）
・令和８年度開催を予定している学年（12学年）
②今後の会報「教友」の発行計画について
・令和５年度（第94号）以降、原則として、すべてホームページに公開する。
・第95号以降については、希望者のみに送付する（5年間）。
・紙ベースでの送付を希望する終身会員　約1,330名
※議事は、すべて、提案どおり承認されました。
5　その他
(1)　埼玉大学ホームカミングデー2025について
令和７年11月22日㈯　会場　大久保キャンパス
(2)　埼玉大学同窓会役員（副会長、理事、ホームカミングデー実行委員、監事）について
6　閉会のことば　石田　耕一　副会長

埼玉大学ホームカミングデー二〇二五

埼玉大学・埼玉大学同窓会　共催

埼玉大学祭「むつめ祭」期間中の令和七年十一月二十二日㈯、秋晴れの下「埼玉大学ホームカミングデー二〇二五」が開催されました。

秋晴れの中、盛況の「むつめ祭」

○歓迎会・講演会

会場　全学講義棟一号館三〇一講義室

歓迎会では、埼玉大学同窓会井上直也会長のあいさつ、坂井貴文学長からあいさつ及び埼玉大学の近況報告がありました。坂井学長から、教育に関しては、アクティブラーニング型教育、数理・データサイエンス・AIプログラム、アントレプレナー教育プログラムなどの学部横断型の教育に力を入れていること、研究に関して二つの研究「ERATO豊田植物感覚プロジェクト」、「X線分光撮影衛星XRISM（クリズム）」の取組、運営に関して学費の改訂を行うことなどについて報告がありました。また、これらは、『埼玉大学 統合報告書二〇二五』として公表しているとの話がありました。

続いて、特別講演が行われました。

演題　「女性の力が大学を変える―埼玉大学から発信するジェンダーとスポーツの新時代―」

講師　日本女子体育大学教授　埼玉大学フェロー　溝口紀子　氏

講演する溝口紀子氏

講演では、まず、オリンピックを通してジェンダー史を見ていくと女性のスポーツ参入は世界を元気にしていること、女性の活躍できる時期・パフォーマンスの高まる時期が出産・育児と重なること、産後の競技復帰は難しいが、スポーツ科学により解決されようとしていることをお話いただきました。さらに、女性が活躍できる組織では男性も伸びること、先生ご自身のフランスナショナルチームのコーチとしての経験から、育てた選手たちがコーチや指導者になっているのは、ダイバーシティーによるもので、それがフランスの強みであると結論付けられていました。最後に埼玉大学の学生などの男女比を挙げながら女性の比率を高めることによって大学での研究や企画に多様性が生まれてくるのではないかと指摘されるとともに、人づくりの埼玉大学であってほしいとの期待が述べられました。

301 講義室を埋める参加者

○懇親会

会場　第一食堂

あいさつする大澤会長

各学部同窓会長あいさつ、歓談、秋季学生表彰がありました。清水誠名誉教授、教育学部から戸部秀之学部長、有川秀之副学部長、池内真知子主幹にもご参加いただきました。

懇親会での歓談

令和７年度　教友会　役員名簿　令和７年５月10日改訂

役職	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年
顧　問	戸部　秀之	学部長		清水　章夫	中	昭30	岩佐正二郎	中	昭37	金子美智雄	小	昭43
	松澤　勇治	小	昭50									
会　長	大澤　利彦	小	昭52									
副会長	高瀬　　浩	小	昭53	秋本　文子	中	昭53	福島　正美	小	昭58	石田　耕一	中	昭58
監　事	岡田　謙司	中	昭49	金澤　清久	小	昭52	内田　道雄	中	昭54			
本部常任委員	大塚　　彰	小	昭48	野口　　忠	小	昭50	長谷河初男	小	昭53	長谷川　博	小	昭56
	清水　　隆	小	昭57	松本　　浩	小	昭57	森　　裕子	小	昭60	伊藤　秀一	小	昭63
幹　事	髙橋　太一※	附中・副長		山本　孔紀	附中・主幹		塩盛　秀雄	附小・副長		笠原　雅広	附小・主幹	
事務局	松澤　勇治	事務局長		引間　和彦	事務局次長		（※幹事長）					

教友会　学年理事名簿（学年毎 五十音順）　令和７年５月10日改訂

卒業年	氏名						
昭和44	石井　　昇	長嶋美知子	野口　淳一				
45	加々美健一	野原　　晃	藤間　文隆				
46	大熊　光治	大塚　基司	丸山　綱男				
47	石田　拓喜	木村　栄二	久保忠太郎	清水　　誠			
48	大岡　由男	大塚　　彰	神山　則幸	小林　博武	齋藤　一雄	武田　　誠	富田　法昭
49	新井　良和	岡田　謙司	小川　詠二	小川　良雄	相馬　優子	瀧澤　重博	蓮見木予子
	吉倉　清子						
50	井上　　馨	梅山　健司	小谷野健史	野口　　忠	野口　英世	平賀　健郎	松澤　勇治
51	内田　　明	平澤　　香	若手三喜雄				
52	大澤　利彦	金澤　清久	関　　好子	野津千恵子	千島　力夫	服部　純一	馬場　和久
	山﨑　和恵						
53	秋本　文子	高瀬　　浩	長谷河初男	馬場　弘昭	山口　哲司	山本　耕司	
54	磯　真砂子	内田　道雄	角田　　守	櫻井　康博	田辺　暁己	中村　　健	中村　敏男
55	田村　俊一	守屋　敏夫	吉田　睦代				
56	加藤　　修	加藤　美幸	武井　　悟	野口　久男	野村　　剛	長谷川　博	山口　謙一
57	清水　　隆	松本　　浩					
58	石田　耕一	関　　克則	福島　正美	山田　晋治			
59	坂田　真澄	引間　和彦	真武　公司	吉野　寿一	小山久仁子		
60	安部　恭子	新井　　宏	來嶋実樹子	嶋　　徹	杉田　勝弘	中野　浩義	平沼　　智
	森　　裕子						
61	肥土　耕一	石井　宏明	金子　　正	長江　清和	山田　浩一	渡邉　祐子	
62	安藤　義仁	五十嵐和彦	木村　　浩	竹田　　聡	中西　健二		
63	石崎　明子	伊藤　秀一	影山　葉子	髙野　桂子	田島　孝志	福島みどり	本荘　　真
	吉田　　元						

卒業年	氏名						
平成元	石原　博之	駒崎　弘匡	馬場　敏男	引間　陽子			
2	浅見　哲也	井上　雅史	筒井　陽子	椿　智絵	長島クミ子	山根　淳一	
3	牛久　裕介	岸田　健吾	高野　達	野口　高志			
4	栗原　敏枝	白石徳一郎	野口千津子				
5	……						
6	神田　卓也	下妻　淳志	杉澤　肇	細村　一彦			
7	大井　敏彰	塩崎　陽子					
8	古賀　玲香	馬場　雅史	綿貫　功				
9	八坂　和典						
10	新井　飛鳥	五十嵐　淳	岡田　大助	川西　浩之			
11	……						
12	淺井　大貴	佐藤　太一	髙橋容史子	二瓶　剛	橋本　慎也		
13	安藤　栄信	興野　邦孝	平井　悠一				
14	野口　勝義	松下　洋介	三浦　直行				
15	武久　浩之	森田　哲史	矢島　弘一	山田　真之			
16	杉山　直樹	南　登志正					
17	岩田　信之	島田　直也	仙石　大吾	髙橋　太一	松村　洋彦	若村　健一	
18	笠原　俊	森川　大地	山本　孔紀	吉野　竜一			
19	内田　敦子	塩盛　秀雄	渡邊はるか				
20	五十嵐　巧	石髙　吉記	坂井　貴文	杉山　愛	谷津　勇太	吉田みゆき	
21	大関さわ子	岸本　航司	関口　泰広				
22	阿部　健作	石原　良介	奥田　勇司	肥田　幸則	平田　祐也	吉田　真梨	
23	藤田　明人						
24	安藤　健太						
25	……						
26	内田貴美子						
27	三橋　博道	國料　樹					
28	大野　洋嗣	萩原　綾乃	関口　雄太	橋本　柊平	山本　恭平	渡邉　涼太	
29	七五三木侑乃						
30	丸山　貴宏						
31/令和元	秋元　祥広	山岸　実桜					
2	池上　直毅	池淵　大樹	栗原　美沙	榊原　裕也			
3	岸　拓実	中村　優希	平野　幸奈				
4	田端　優一	三浦　脩	吉田　敏康				
5	天貝　光寿	小林　悠人	関　綸太郎	森山　紗帆			
6	鈴木　佑実	塚本　晃大	橋本　廉士	逸見　友花			
7	重田　莉玖	澁谷　樹	杉山　愛來	友安　夢凜			

※学年理事の任期は、卒業55周年同窓会開催の次の年度をもって、終了とさせていただきます。
※学年理事を追加したい場合には、ご本人の承諾をいただいた後、卒業年・氏名・住所・電話番号等を学年理事を通じてご連絡ください。確認のうえ委嘱いたします（メールかFAXで、お願いいたします）。

事務局だより

●住所等変更がありました時には、「登録内容変更」を

住所変更等登録内容に変更がありましたら、登録変更をお願いいたします。一度住所不明になりますと、その後の連絡が取れなくなります。

お手数をおかけしますが、教友会のホームページ「住所等登録内容変更」からお願いいたします。

●紙ベースでの会報の送付について

これまで終身会員の皆様には、毎年「教友」を送付してまいりました。一昨年度発行の「教友」から、全面的にホームページに公開することとなり、会員の方には「送付を希望するか否か」をお伺いし、希望する方には、五年間送付することといたしました。

会報「教友」については、教友会のホームページから見たり印刷したりすることができます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

教友会のホームページへは、「教友会・埼玉大学」か、下のＱＲコードからもアクセス可能です。

令和８年度予定

◎総　会　◇令和八年六月二十日㈯午後一時半～（予定）
◇於　ホテルブリランテ武蔵野

◎卒業五Ｘ周年同窓会
◇詳しくは、本誌　二十二ページ　参照

◎埼玉大学ホームカミングデー　十一月下旬（予定）
◇於　埼玉大学（さいたま市桜区下大久保）
◇申し込み　埼玉大学ホームページに掲載（予定）

埼玉大学からのお願い　～埼玉大学基金への協力のお願い～

埼玉大学では、「埼玉大学基金」を設け、皆様からのご寄附をいただき、種々の事業を進めております。

具体的には、**創立八十周年記念事業募金・埼大みらい基金・修学サポート基金・研究等支援基金・冠奨学金基金**です。

本年度も、多くの団体や個人の皆様からご寄附をいただきました。埼玉大学ホームページ「埼玉大学基金」の「ご寄附いただいた方々」にアクセスいただきますと、ご覧いただけます。

心から御礼申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

編集後記

「教友第九十六号」をお届けいたします。

発行にあたり、教育学部副学部長の有川秀之様には、玉稿をお寄せいただき、感謝申し上げます。本学部並びに教職大学院の現状や様々な課題解決に向けた取組について、おまとめいただきました。現在、首都圏の国立大学の教員養成学部の卒業生の教員就職率が低いことが課題となっております。我が埼玉大学教育学部は、埼玉師範学校・青年師範学校の系譜に属する学部です。「教員養成に特化した学部」としての本来の役割を果たすことを期待したいものです。

教師を目指す皆様には、「模擬個人面接を通して」や「後輩へのアドバイス」を生かしていただきたいと思います。また、卒業生の皆様には、「キャンパスライフ」（サークル紹介・ゼミ紹介）をお読みいただくことで、現在のサークルやゼミの様子を知っていただければ幸いです。

今号も、「同窓生の広場」には、様々な年代層から貴重な原稿をお寄せいただき、感謝申し上げます。また、「卒業五Ｘ周年同窓会」は、今年度も六学年で開催され、各学年の同窓会の報告も掲載いたしました。それぞれ、互いの交流の一助になることを願っております。

次期学習指導要領の改訂に向けて様々な議論がなされております。これからの時代を生きる子供たちに求められる力を育成する上で、教師の役割はますます大きくなります。同窓生の皆様には、目の前の子供たちへの指導はもちろん、特に、教師になって間もない後輩への指導等に十分力を発揮していただきたいと思います。

末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

発行者　教友会（埼玉大学教育学部同窓会）
事務局　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター内
事務局長　松澤勇治
〒三三〇―〇〇六一　さいたま市浦和区常盤六―九―四四
ＦＡＸ　〇四八（七六七）八七〇三
E-mail：kyouyuukai.saitama@gmail.com
印刷所　望月印刷株式会社
〒三三〇―〇八五四　さいたま市大宮区桜木町一―一九五―一　大宮ソラミチＫＯＺ　十一階
電　話　〇四八（七四一）九三〇〇
ＦＡＸ　〇四八（六四一）五〇〇五